

近年、令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨等、全国各地で水災害が激甚化・頻発化しており、降雨量の増大等に対応するため、国や自治体はハード整備の加速化・充実や治水計画の見直しを行っています。加えて、上流・下流や本川・支川の流域全体を俯瞰し、国と自治体、企業、住民等、あらゆる関係者が協働で取り組む「流域治水」の実効性を高める法的枠組み「流域治水関連法案」が令和3年11月に施行されました。

本市では、水防法や土砂災害防止法に基づき「洪水」や「土砂災害」さらには今後の地震災害に備えるための「液状化」といった各種の「ハザードマップ」を作成しており、住民の皆さまへは印刷物の配布やウェブサイト等で周知を行っています。

市民の皆さまの各種ハザードマップに対する認知度を把握し、今後の取組みに向けて参考とさせていただくため実施したアンケート結果をお知らせいたします。

(河川課)

調査概要

- 調査期間 令和7年7月4日（金）～7月13日（日）（10日間）
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 427名 （男性 185名 女性 241名 その他 1名）
- 回答者数 378名 （男性 159名 女性 218名 その他 1名）
- 回答率 88.5%

【分析】

《回答者内訳（人）》

年代	10代～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
男性	6	12	28	40	35	24	14	159
女性	14	28	64	61	41	9	1	218
その他	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	21	40	92	101	76	33	15	378

《自分自身の避難について》

・自分自身の避難場所について全体の82.8%が「知っている」と回答し、17.2%が「知らない」と回答。（問1）

・自分自身の避難ルートについて全体の72.5%が「決めている」もしくは「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答し、27.5%が「決めていない」と回答。（問2）

《洪水ハザードマップについて》

・郡山市洪水ハザードマップ（以下、洪水ハザードマップ）について92.3%が「知っている」と回答し、7.7%が「知らない」と回答。（問3）

・洪水ハザードマップにより自宅や学校、職場等の水害リスクについて全体の73.9%が事前に「確認している」と回答し、26.1%は「確認していない」と回答。（問6）

《土砂災害ハザードマップについて》

・郡山市土砂災害ハザードマップ（以下、土砂災害ハザードマップ）について全体の67.7%が「知っている」と回答し、32.3%が「知らない」と回答。（問7）

・土砂災害ハザードマップにより自宅や学校、職場等の水害リスクについて全体の67.2%が事前に「確認している」と回答し、32.8%が「確認していない」と回答。（問10）

《液状化ハザードマップについて》

・郡山市液状化ハザードマップについて全体の37.6%が「知っている」と回答し、62.4%が「知らない」と回答。（問11）

《その他について》

・各種ハザードマップの今後の活用について、全体の25.7%が「既に活用している」、68.3%が「活用を考えている」、6.1%が「活用を考えていない」と回答。（問24）

【考察】

・自分自身の避難場所や避難ルートについて約7割が事前に決めており、災害時における避難への意識が高い。

・新たな避難場所を追加した際は、避難場所の選択肢として認知してもらえるよう追加の都度周知を強化する必要がある。

・土砂災害ハザードマップ及び液状化ハザードマップの認知度は、洪水ハザードマップよりも低いので、引続き周知・啓発をしていく必要がある。

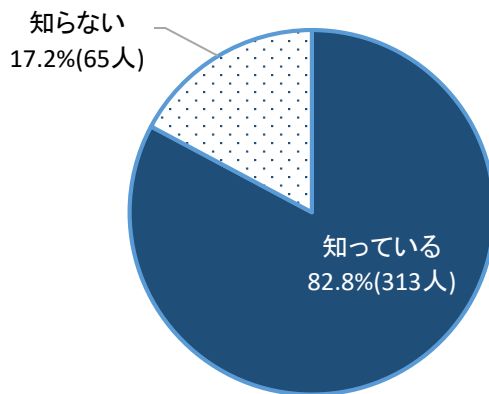
・各種ハザードマップの今後の活用について、大多数の方が活用する考えでいる一方で、自宅の周りは安全などの理由から、活用を考えていないという意見もあった。必ずしも、自宅で被災するとは限らないので、引続きハザードマップの啓発を行っていく必要がある。

※ 構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

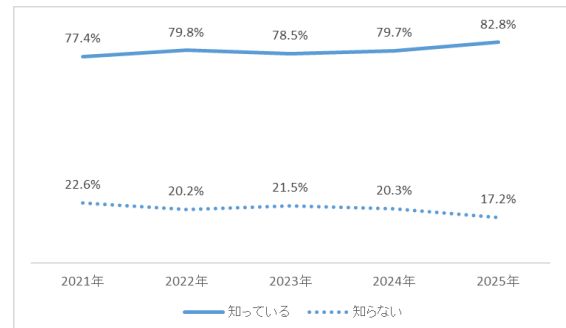
第1章 自分自身の避難について

問1 災害の種類（地震、水害など）に応じた自身の避難場所をご存知ですか？ （1つ選択）

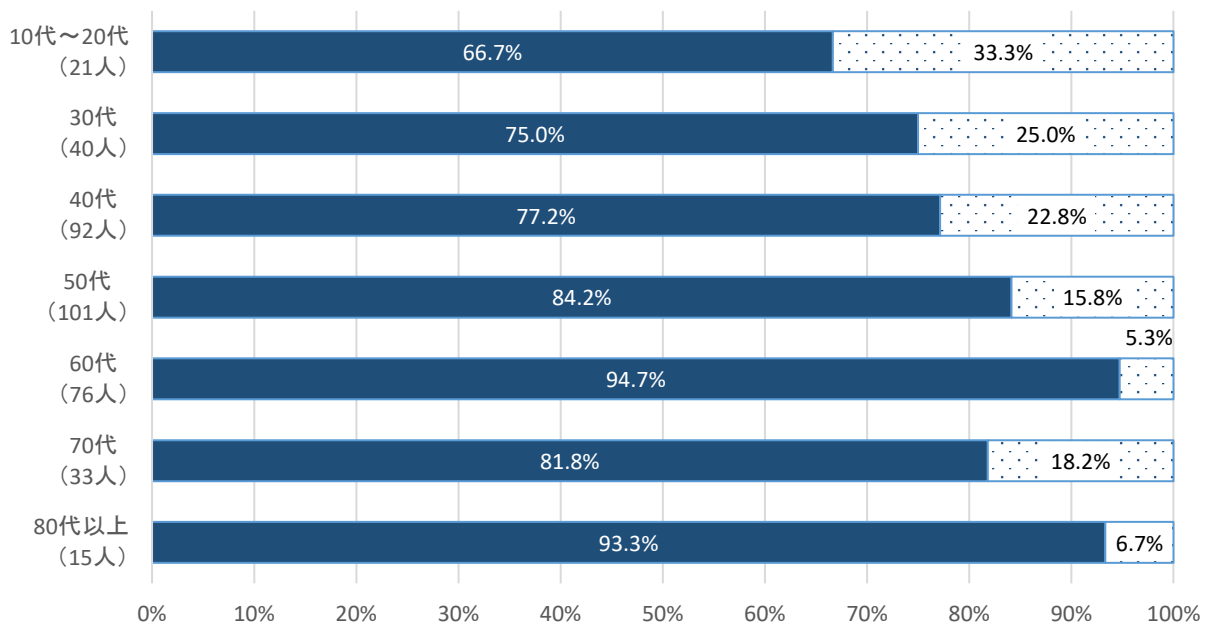
（回答者：378人）



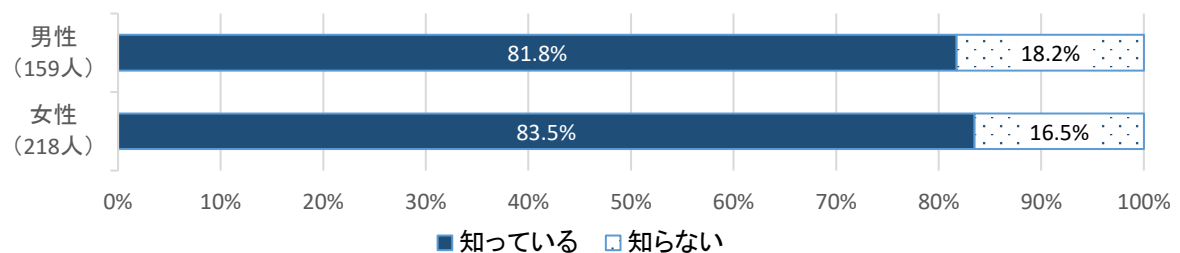
調査結果の推移



年代別



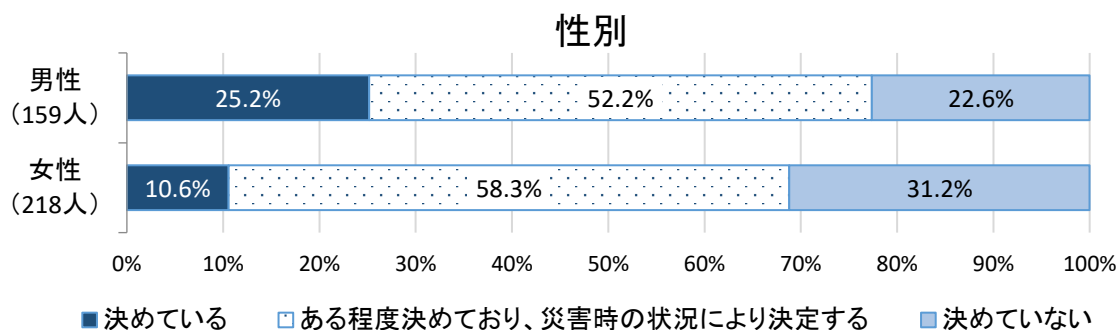
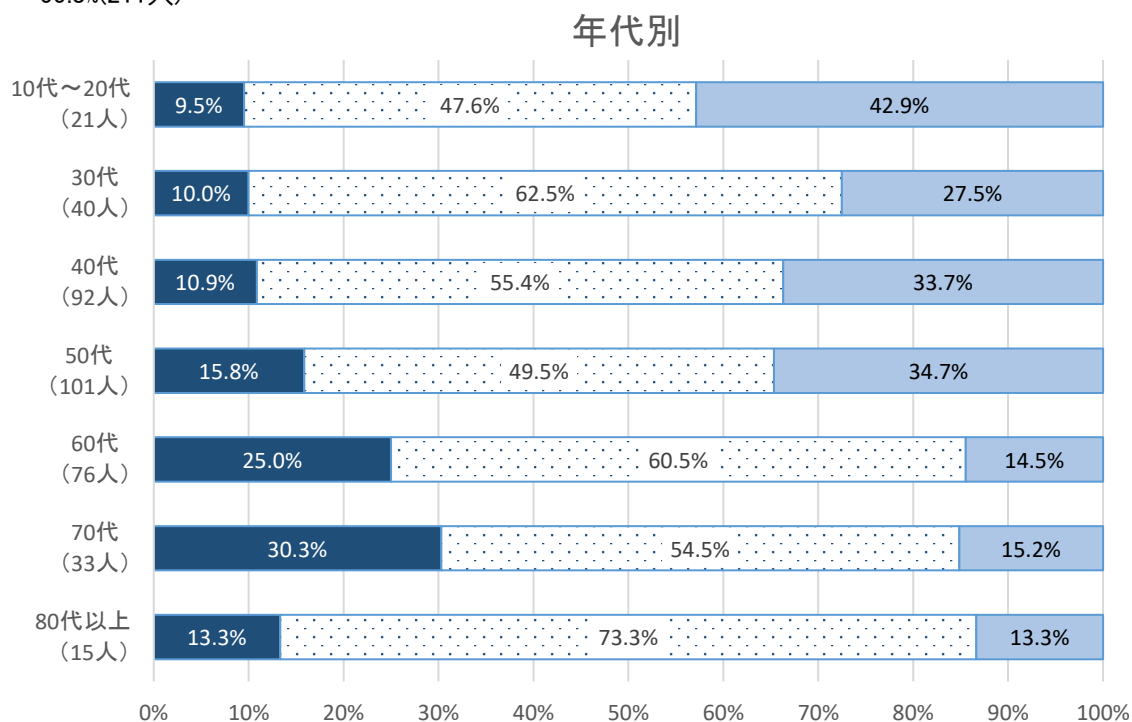
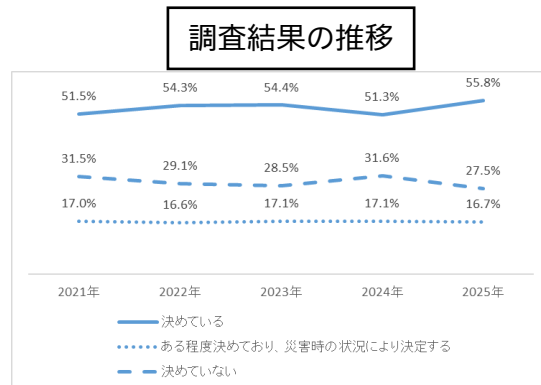
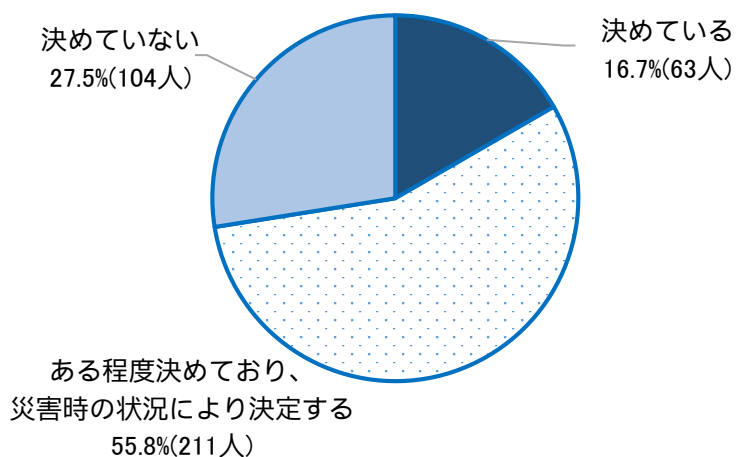
性別



災害の種類（地震、水害など）に応じた自分自身の避難場所について、全体の82.8%が「知っている」と回答している。また、年代別においては、60代と80代以上が9割以上、その他の年代でも6割以上の方が「知っている」と回答している。

問2 災害の種類（地震、水害など）に応じた自身の避難ルートを決めていますか？ （1つ選択）

（回答者：378人）

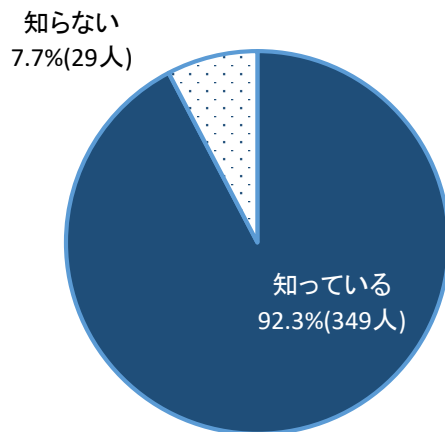


全体の16.7%が「決めている」、55.8%が「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答し、合わせて72.5%がどこから避難ルートを決めている。性別では、男性は77.4%、女性は68.9%が「決めている」もしくは「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答しており、女性よりも男性の方が8.5ポイント高い。

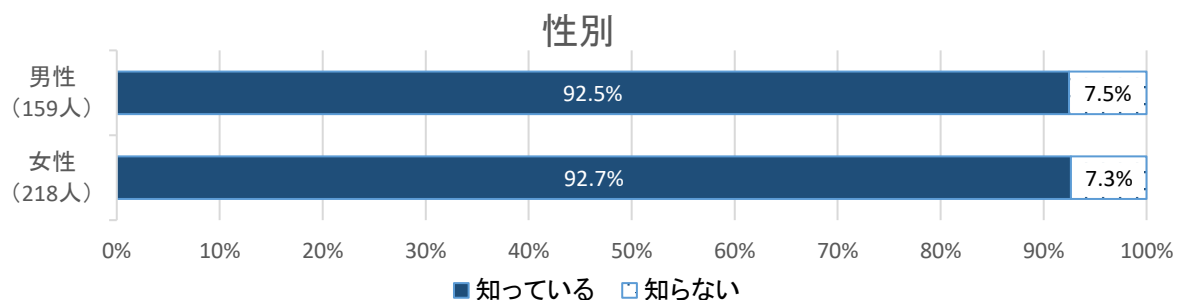
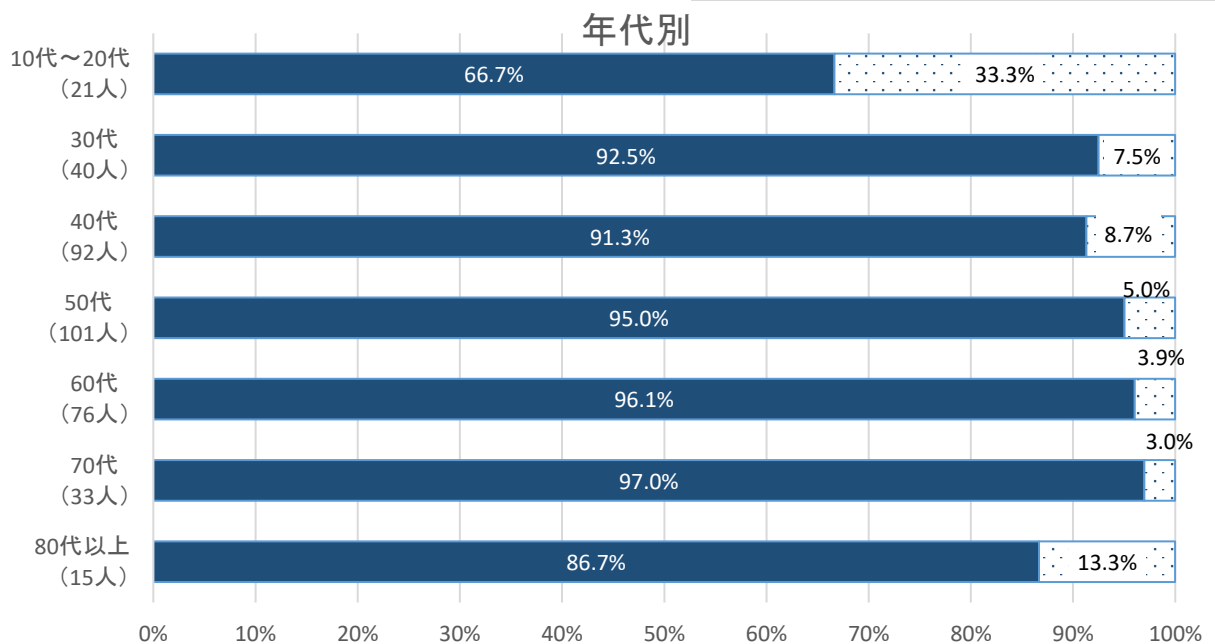
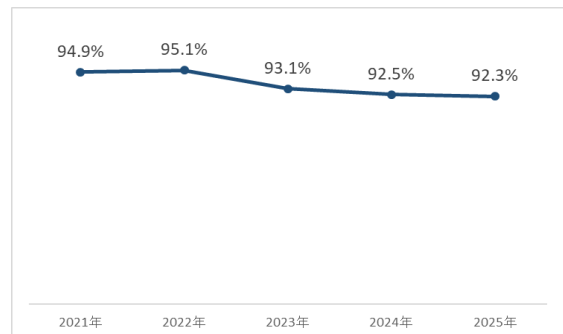
第2章 洪水ハザードマップについて

問3 郡山市洪水ハザードマップ（以下、洪水ハザードマップ）をご存知ですか？ （1つ選択）

（回答者：378人）



洪水ハザードマップ認知度の推移

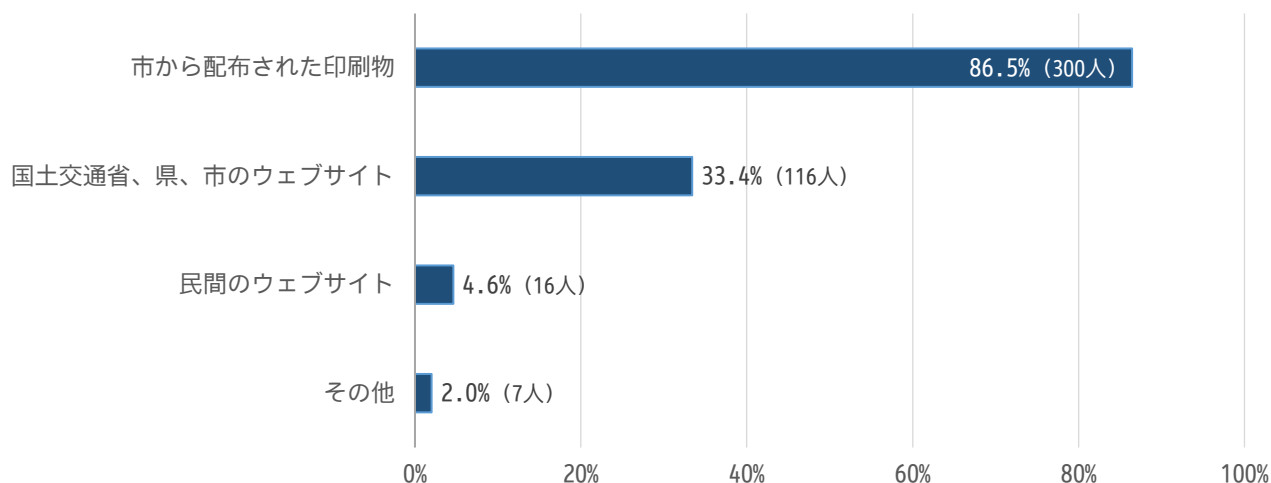


全体の92.3%が「知っている」と回答し、洪水ハザードマップの認知度は9割を超えている。年代別では、30代以上の認知度がほぼ9割を超えている。性別では、認知度に大きな差はない。

問4 問3で「知っている」を選択した方に伺います。どのような方法で洪水ハザードマップを知りましたか？（複数選択可）

（回答者：347人）

（無回答：2人）



※割合は回答者数に対する選択者数の値です。

■「その他」を選択した方の主な意見

- ・学校
- ・職場等
- ・研修会、講演会等
- ・TV、ラジオ等

「市から配布された印刷物」が86.5%と多く、市の配布物が最も認知されている。また、「国土交通省、県、市のウェブサイト」が33.4%、「民間のウェブサイト」が4.6%となり、ウェブサイトによる認知は低い結果となった。

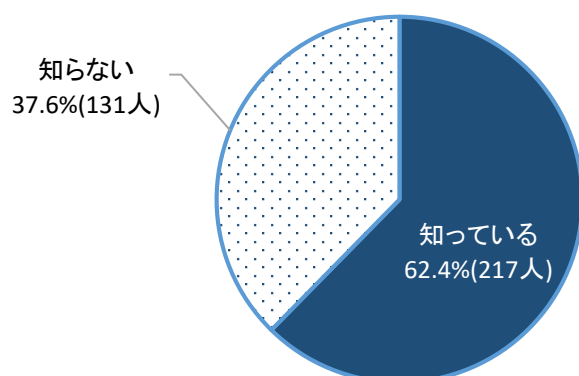
問5 問3で「知っている」を選択した方に伺います。洪水ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？（1つ選択）

洪水ハザードマップURL

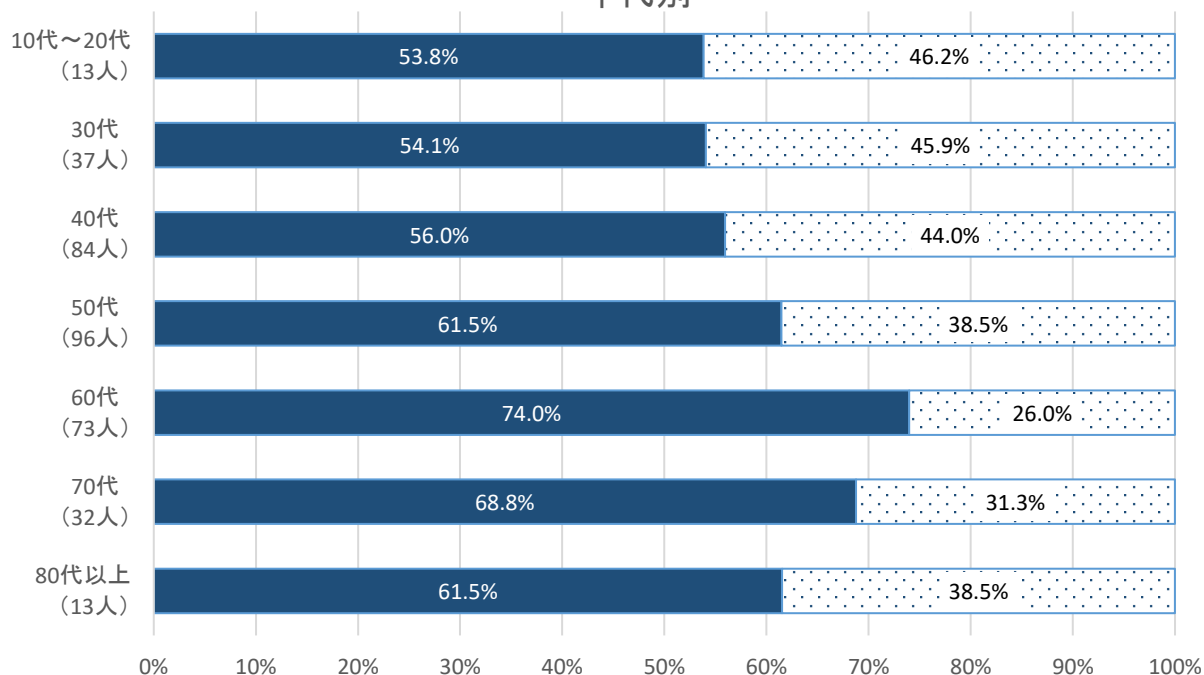
<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/126/2177.html>

（回答者：348人）

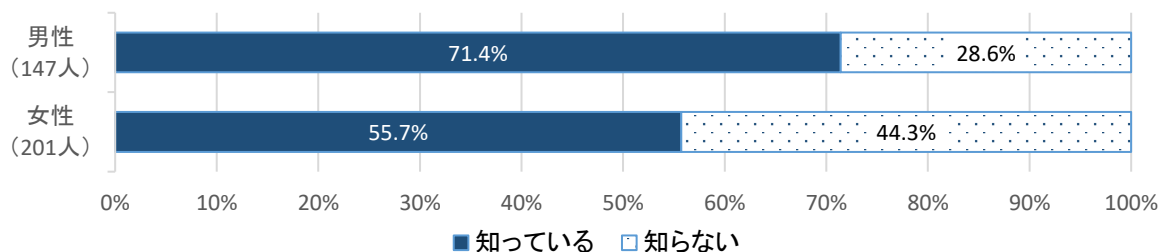
（無回答：1人）



年代別



性別

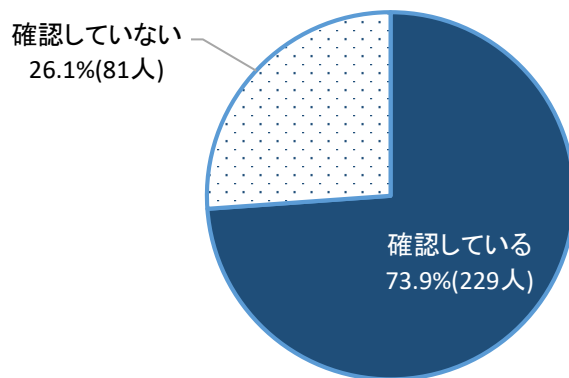


問3で「知っている」と回答した人のうち、62.4%が市ウェブサイトからダウンロードできることを「知っている」と回答している。年代別では、60代が74.0%と最も認知度が高い。性別では、男性は71.4%、女性は55.7%が「知っている」と回答し、男性よりも男性の方が15.7ポイント高い。

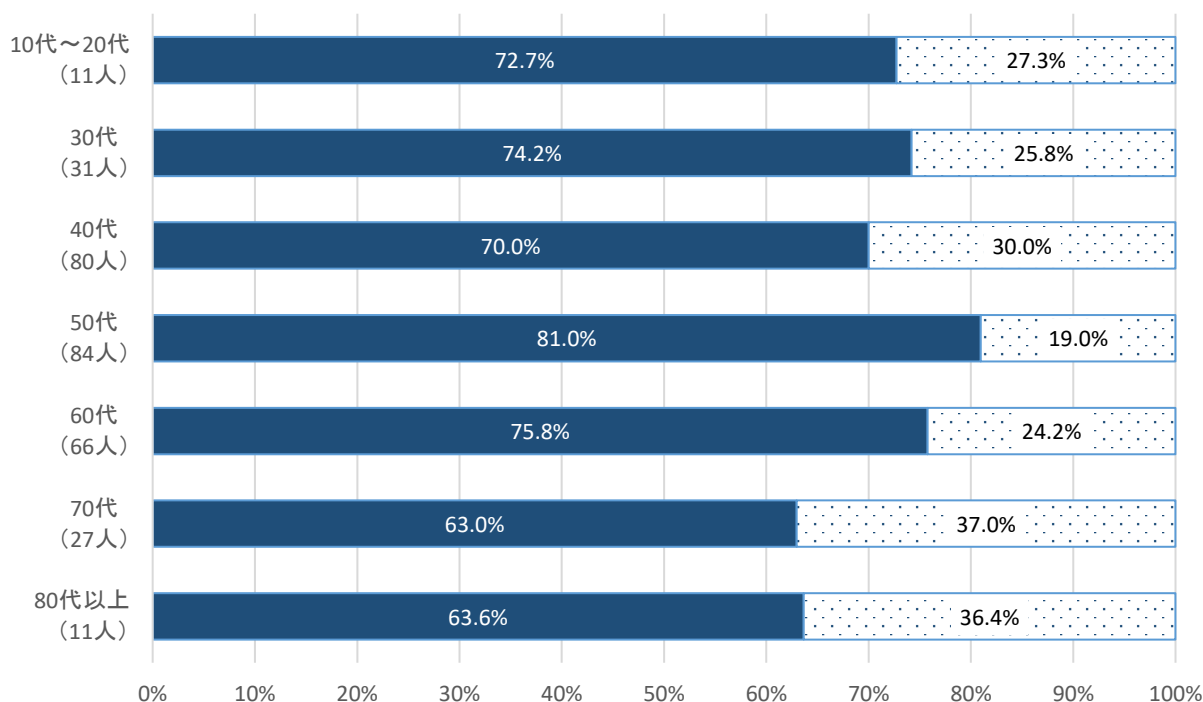
問6 問3で「知っている」を選択した方に伺います。洪水ハザードマップを使って、自宅や学校、職場等の水害リスクについて事前に確認していますか？（1つ選択）

（回答者：310人）

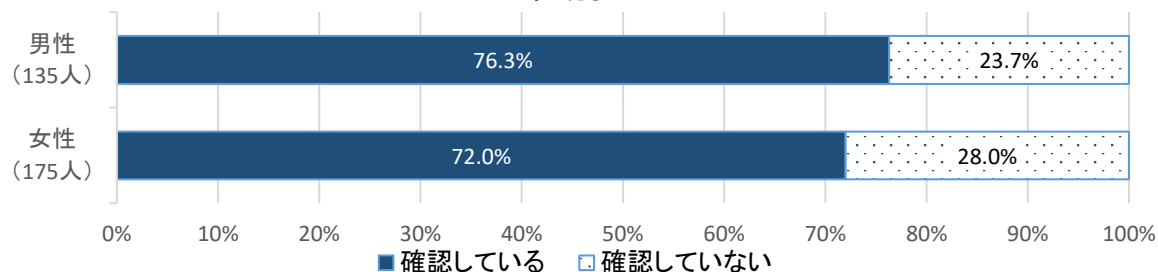
（無回答：39人）



年代別



性別

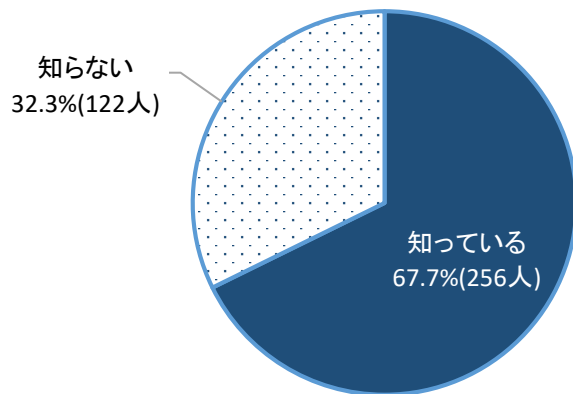


問3で「知っている」と回答した人のうち、73.9%が「確認している」と回答している。年代別では、10代～60代が7割以上が「確認している」と回答している。性別では、男性は76.3%、女性は72.0%が「確認している」と回答し、女性よりも男性の方が4.3ポイント高い。

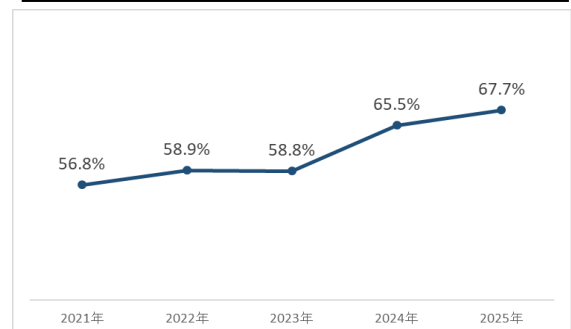
第3章 土砂災害ハザードマップについて

問7 郡山市土砂災害ハザードマップ（以下、土砂災害ハザードマップ）をご存知ですか？ （1つ選択）

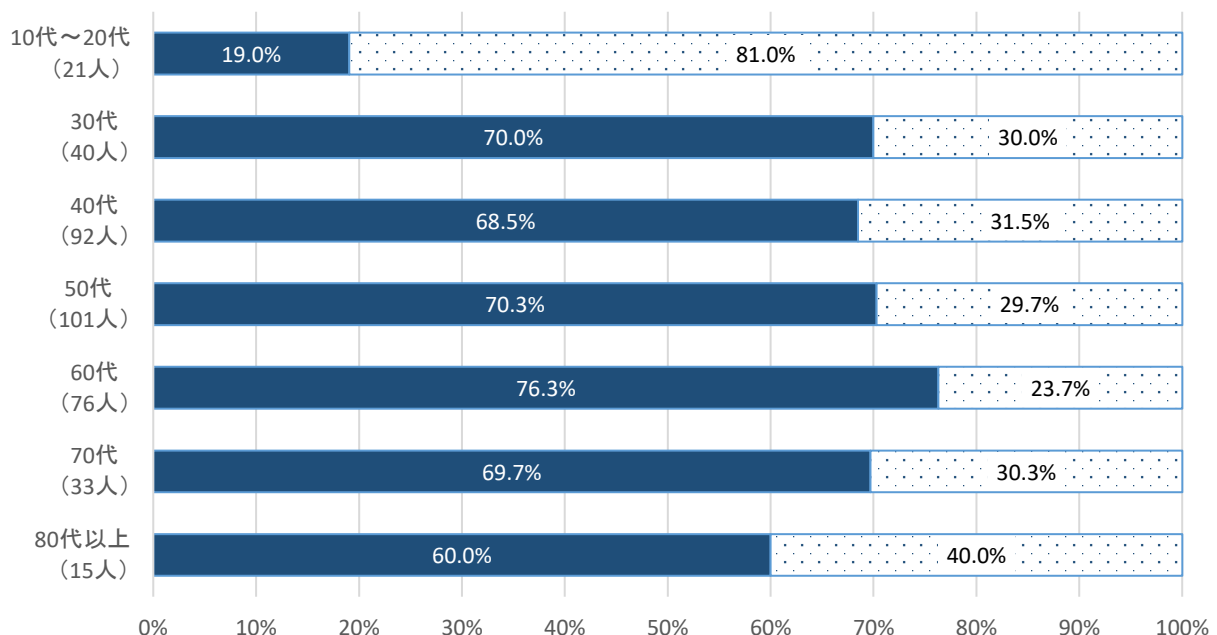
（回答者：378人）



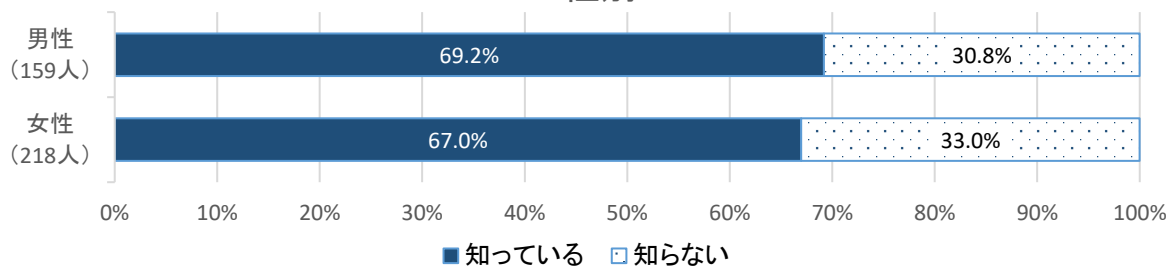
土砂災害ハザードマップ認知度の推移



年代別



性別

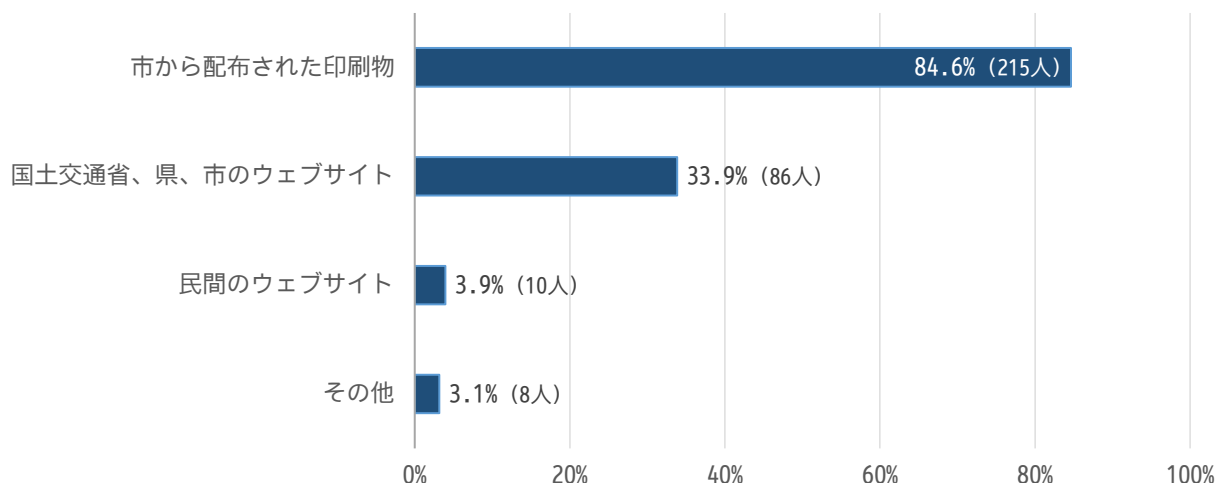


全体の67.7%が土砂災害ハザードマップを「知っている」と回答している。年代別では、10代～20代を除く各年代において約6割以上が「知っている」と回答している。性別では、認知度に大きな差はない。

問8 問7で「知っている」を選択した方に伺います。どのような方法で土砂災害ハザードマップを知りましたか？（複数選択可）

（回答者：256人）

（無回答： 2人）



※割合は回答者数に対する選択者数の値です。

■「その他」を選択した方の主な意見

- ・学校
- ・職場等
- ・研修会・講演会等
- ・TV、ラジオ等

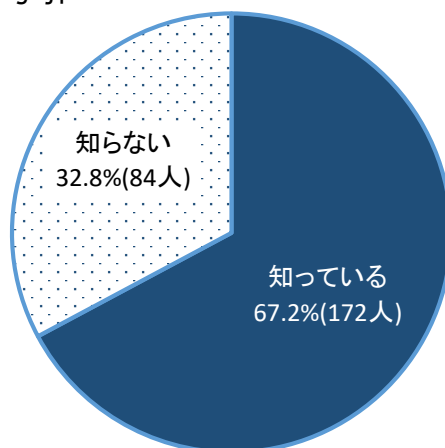
「市から配布された印刷物」が84.6%と多く、市の配布物が最も認知されている。また、「国土交通省、県、市のウェブサイト」が33.9%、「民間のウェブサイト」が3.9%となり、ウェブサイトによる認知は低い結果となった。

問9 問7で「知っている」を選択した方に伺います。土砂災害ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？（1つ選択）

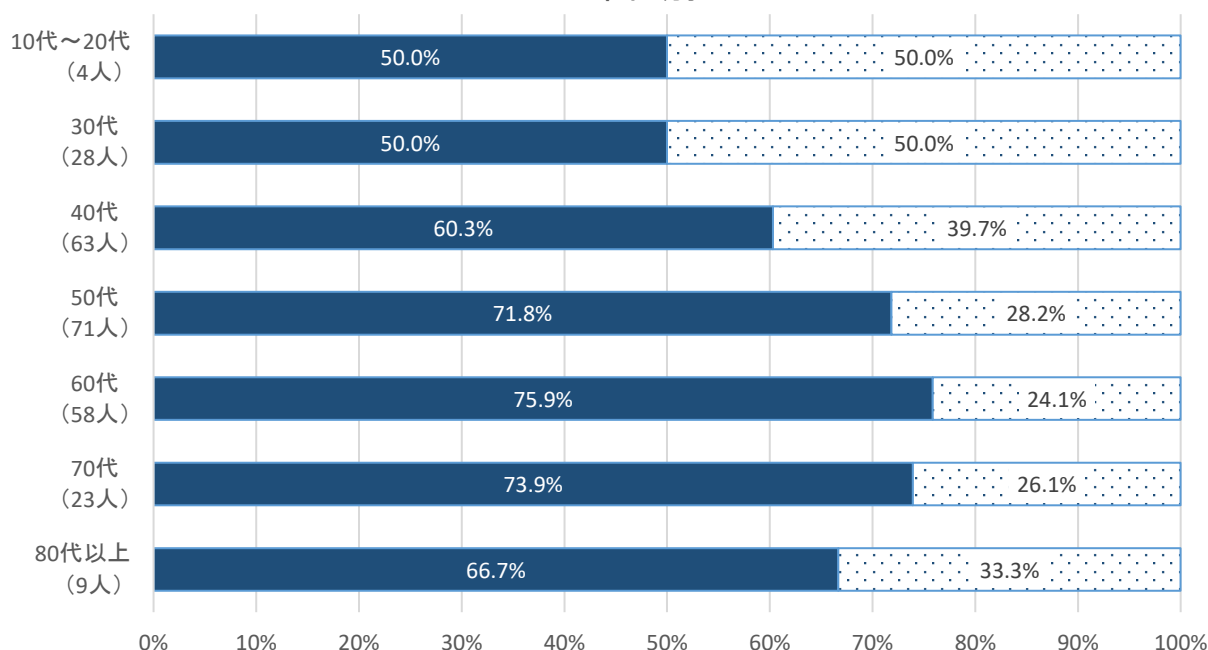
土砂災害ハザードマップURL

（回答者：256人）

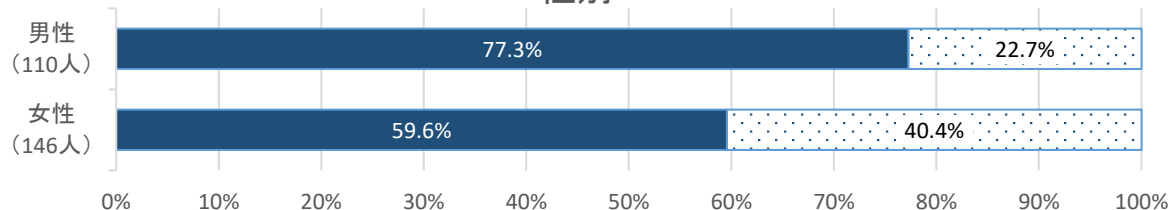
<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/126/2172.html>



年代別



性別



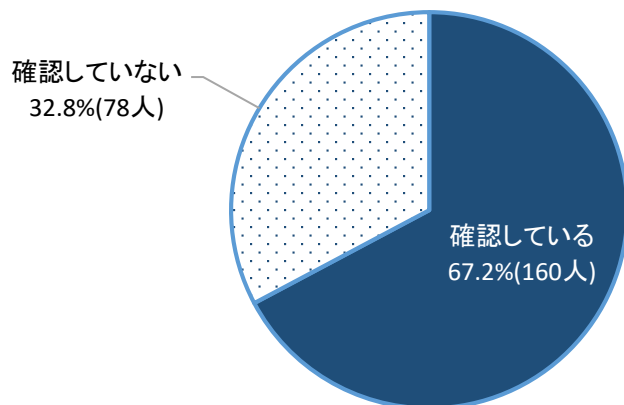
■ 知っている □ 知らない

土砂災害ハザードマップのダウンロードについて、67.2%が「知っている」と回答している。年代別では、50代・60代・70代において7割以上と認知度が高い。性別では、男性は77.3%、女性は59.6%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が17.7ポイント高い。

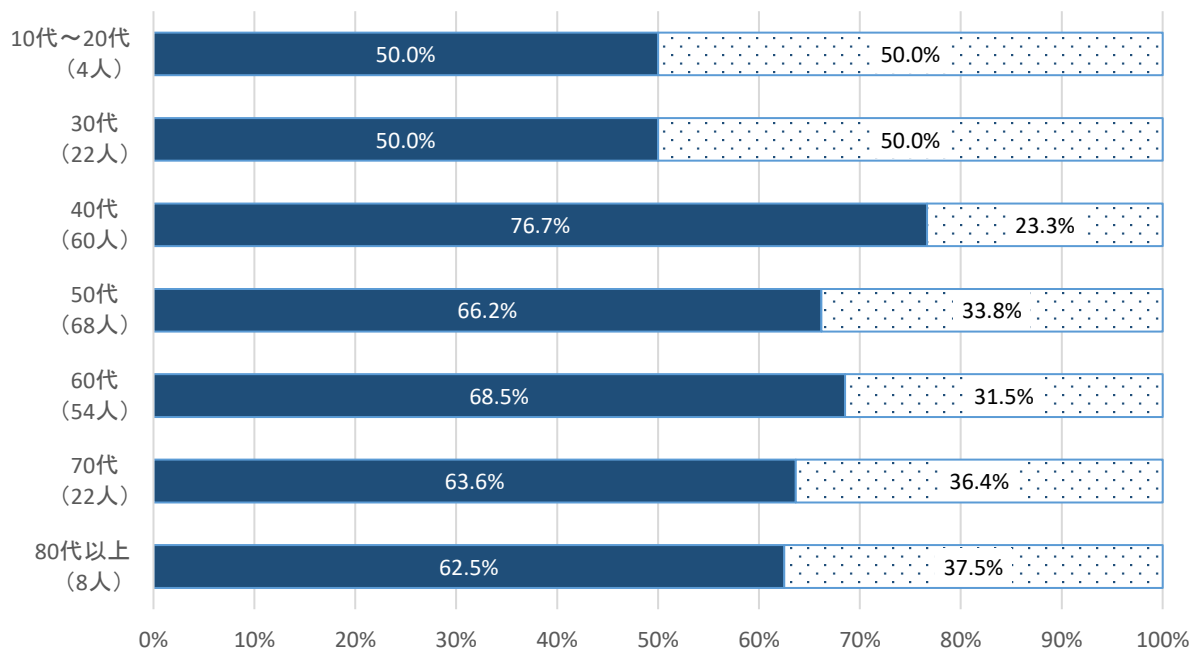
問10 問7で「知っている」を選択した方に伺います。土砂災害ハザードマップを使って、自宅や学校、職場等の土砂災害リスクについて事前に確認していますか？（1つ選択）

（回答者：238人）

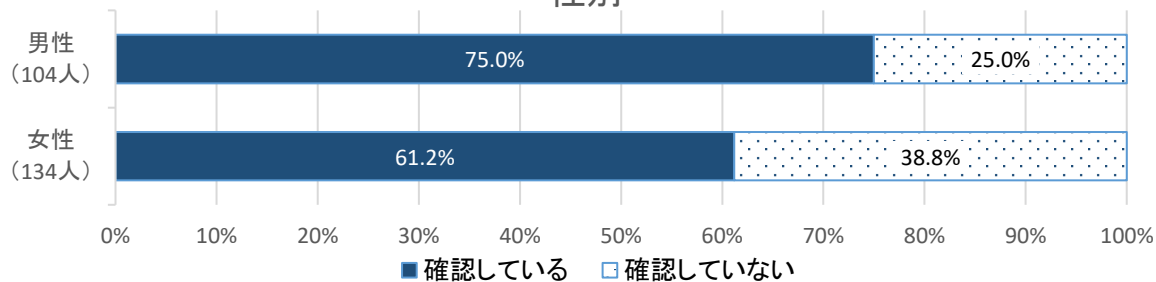
（無回答：18人）



年代別



性別

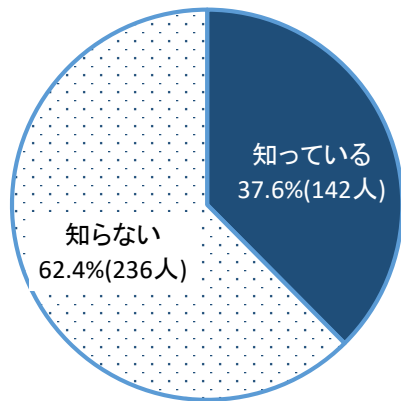


問7で「知っている」と回答した人のうち、67.2%が土砂災害リスクについて事前に「確認している」と回答している。年代別では、40代が7割以上と「確認している」割合が高い。性別では、男性は75.0%、女性は61.2%が「確認している」と回答し、女性よりも男性の方が13.8ポイント高い。

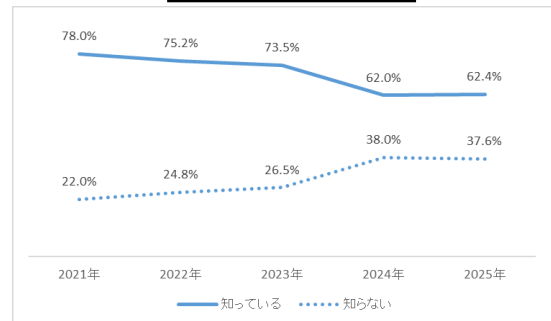
第4章 液状化ハザードマップについて

問11 郡山市液状化ハザードマップ（以下、液状化ハザードマップ）をご存知ですか？ （1つ選択）

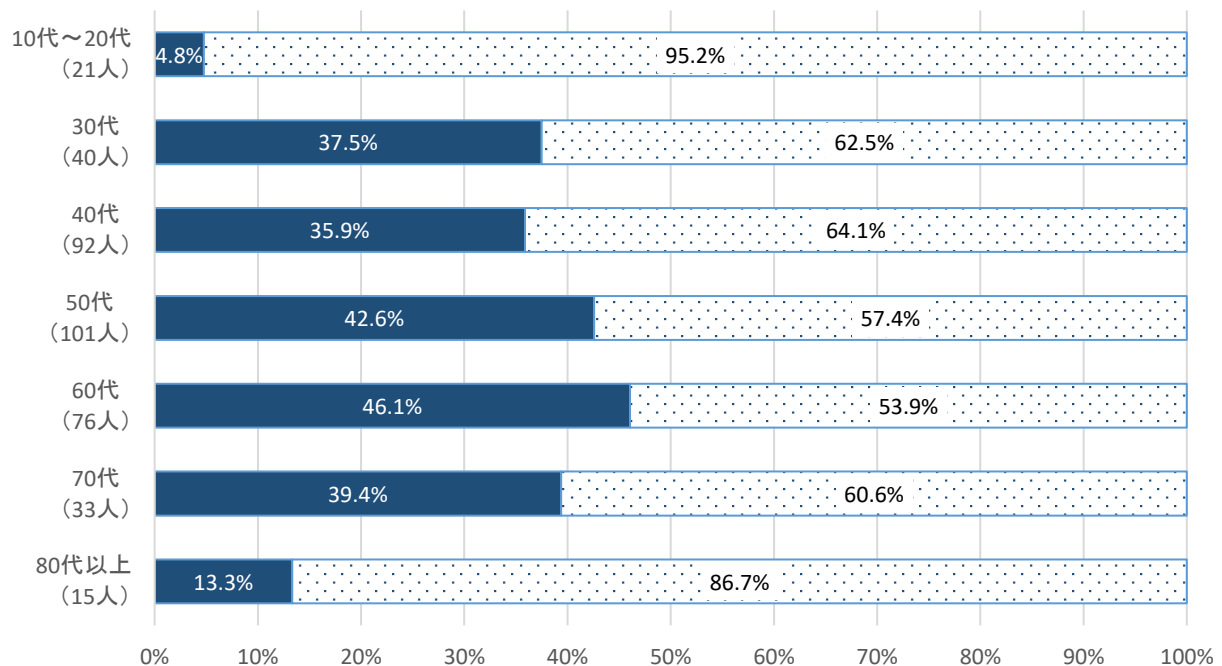
（回答者：378人）



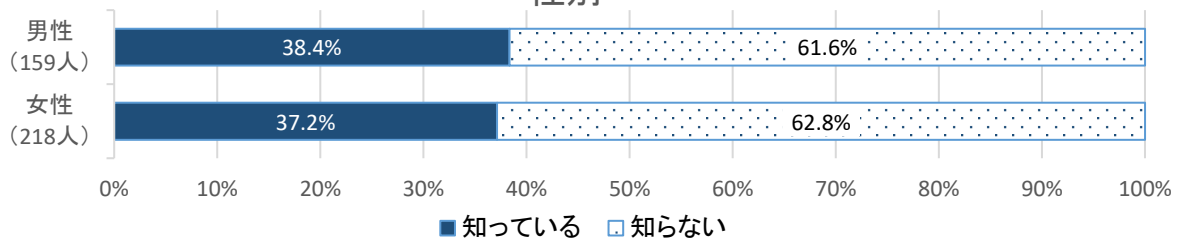
調査結果の推移



年代別



性別

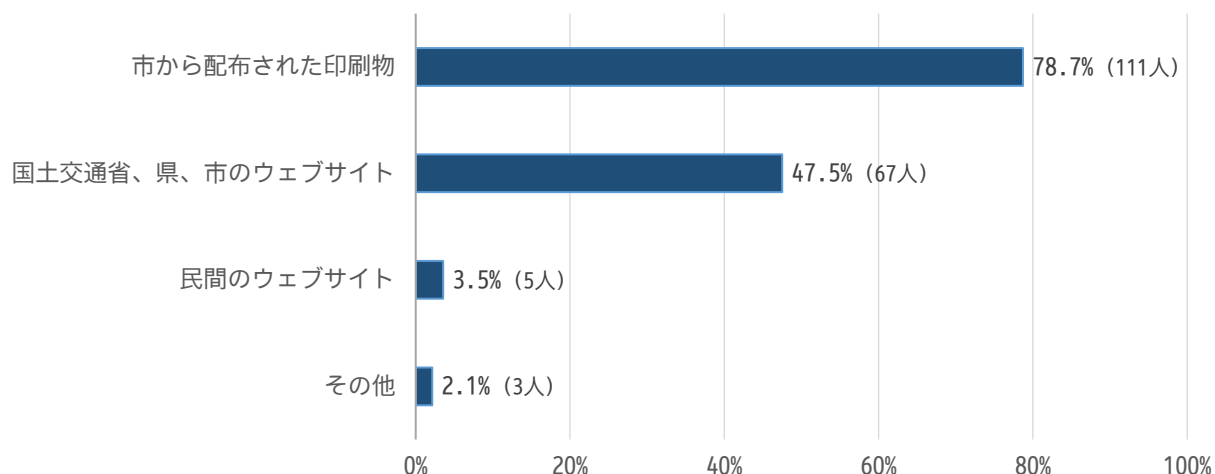


全体の37.6%が「知っている」と回答している。年代別では、10～20代・80代以上の認知度が低い。性別では、認知度に大きな差はない。

問12 問11で「知っている」を選択した方に伺います。どのような方法で液化化ハザードマップを知りましたか？（複数選択可）

（回答者：141人）

（無回答： 1人）



※割合は回答者数に対する選択者数の値です。

■「その他」を選択した方の主な意見

- ・学校
- ・職場等
- ・TV、ラジオ等

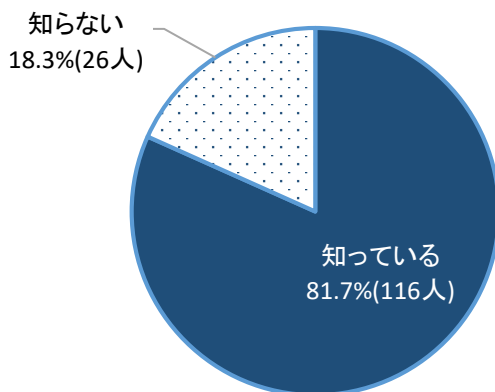
「市から配布された印刷物」が78.7%と多く、市の配布物が最も認知されている。また、「国土交通省、県、市のウェブサイト」が47.5%、「民間のウェブサイト」が3.5%となり、ウェブサイトによる認知は低い結果となった。

問13 問11で「知っている」を選択した方に伺います。液状化ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？（1つ選択）

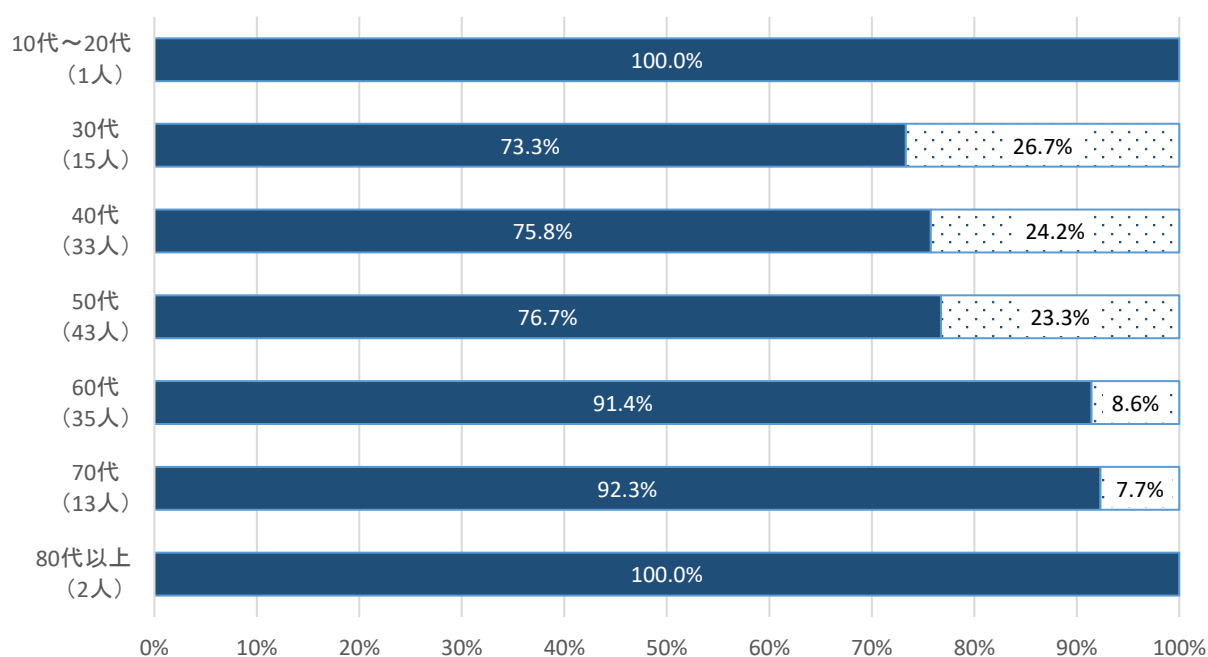
液状化ハザードマップURL

（回答者：142人）

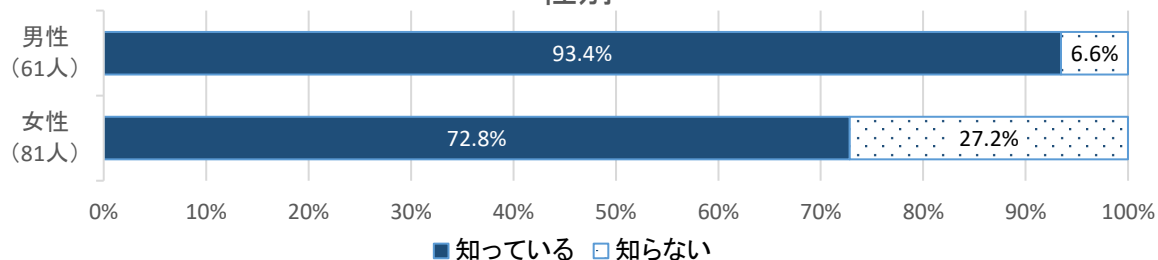
<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/126/2180.html>



年代別



性別



問11で「知っている」と回答した人のうち、液状化ハザードマップのダウンロードについて、81.7%が「知っている」と回答している。年代別では、各年代において7割以上が「知っている」と回答している。また、性別では、男性は93.4%、女性は72.8%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が20.6ポイント高い。

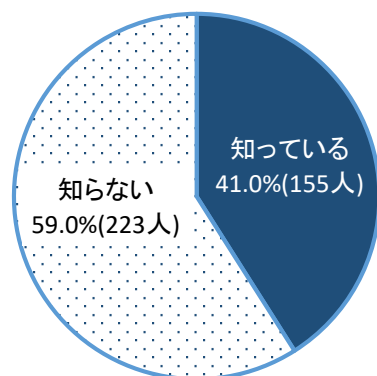
第5章 郡山市地理情報システムについて

問14 インターネットで洪水浸水想定区域や浸水深、土砂災害（特別）警戒区域等を見ることができるサービス「郡山市地理情報システム」をご存知ですか？（1つ選択）

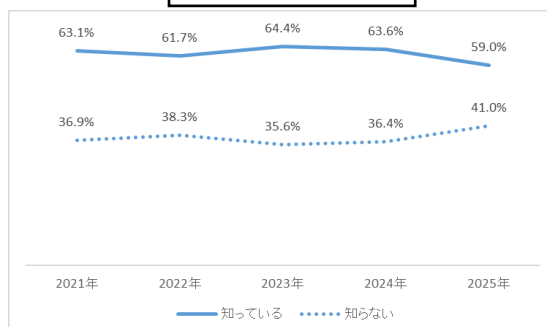
郡山市地理情報システムURL

（回答者：378人）

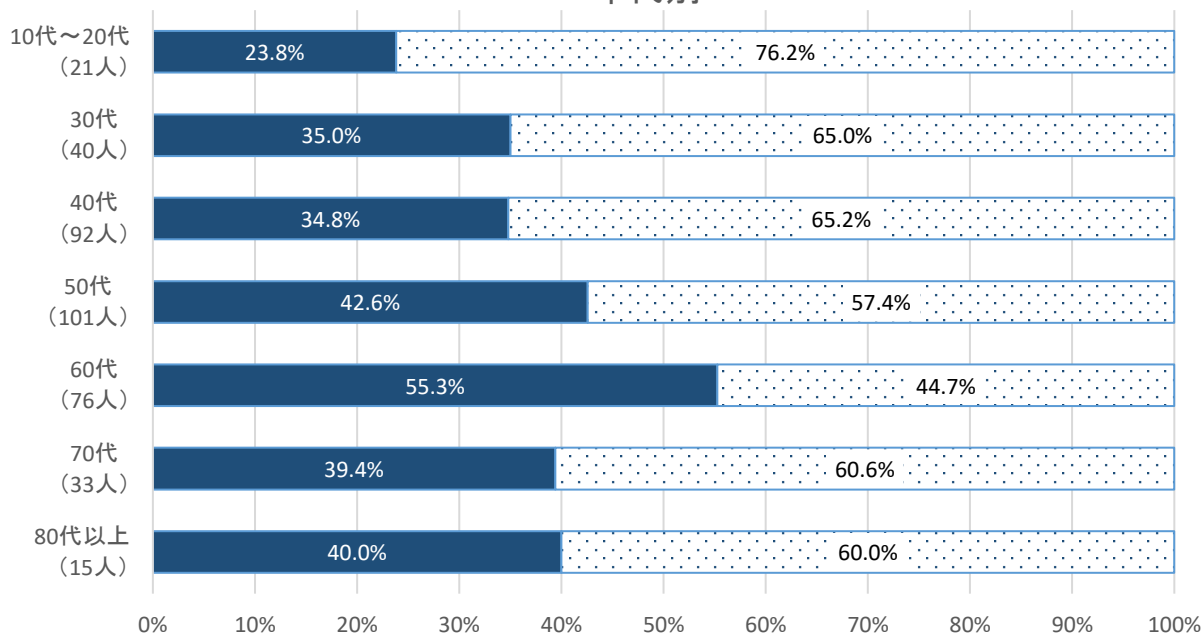
<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/22/1161.html>



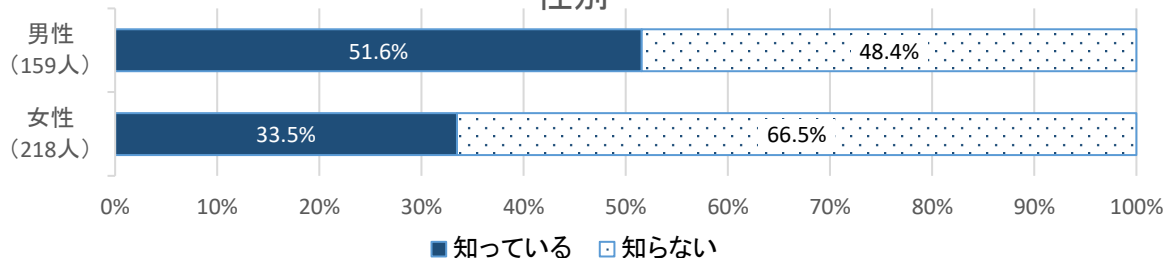
調査結果の推移



年代別



性別

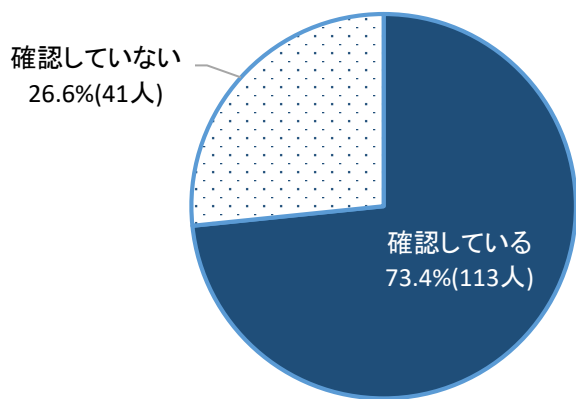


全体の41.0%が「知っている」と回答している。年代別では、60代を除く各世代において半数以下の割合を示していることから、「郡山市地理情報システム」の認知度は低い。性別では、男性は51.6%、女性は33.5%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が18.1ポイント高い。

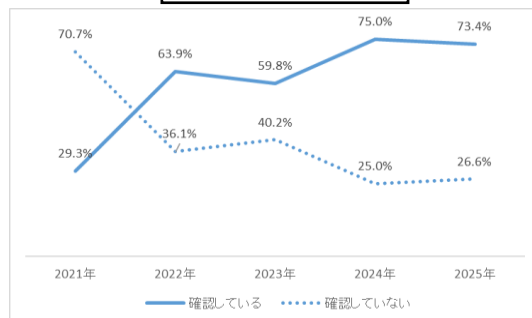
問15 問14で「知っている」を選択した方に伺います。郡山市地理情報システムを使って自宅や学校、職場等の水害リスク、土砂災害リスクについて事前に確認していますか？
(1つ選択)

(回答者：154人)

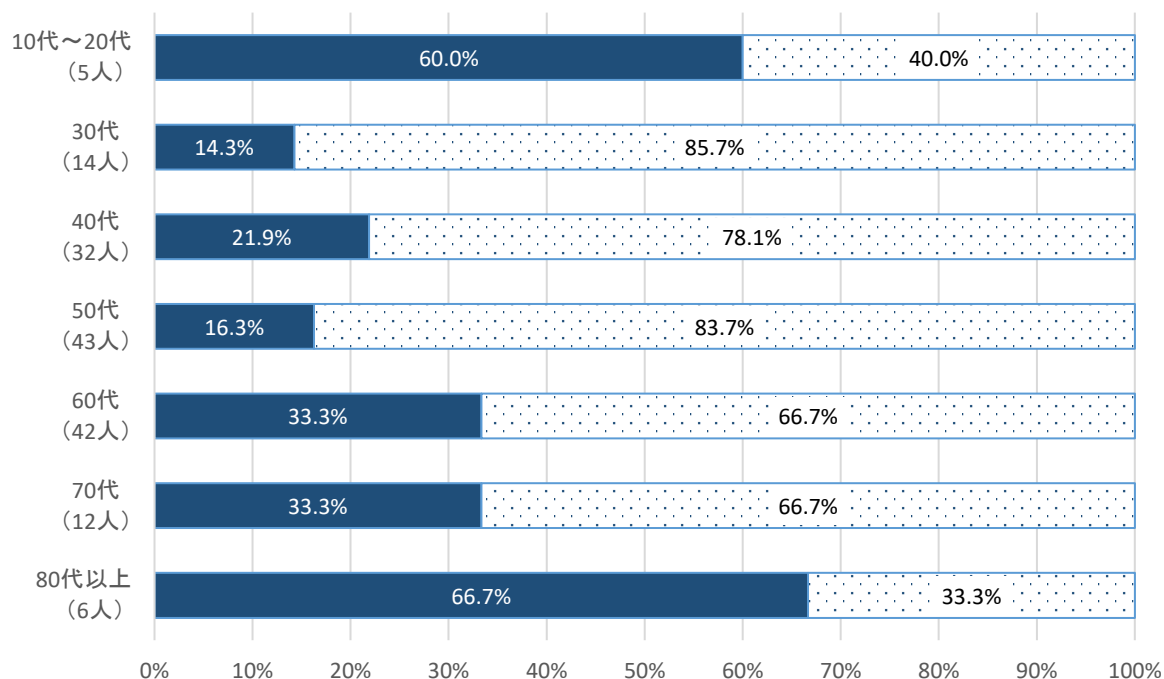
(無回答：1人)



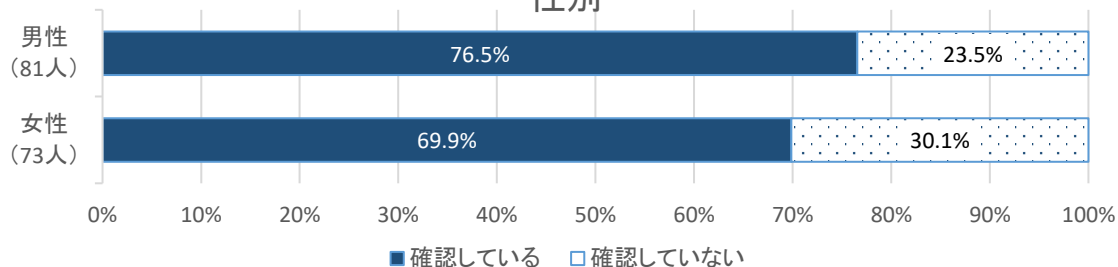
調査結果の推移



年代別



性別

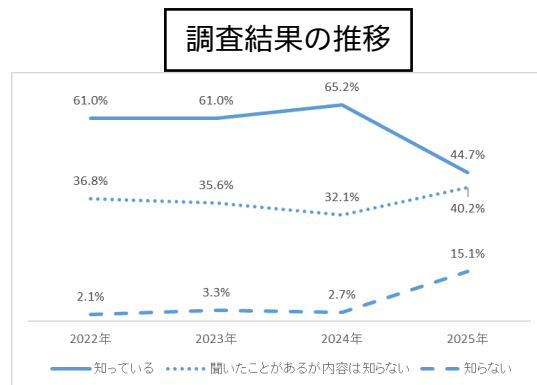
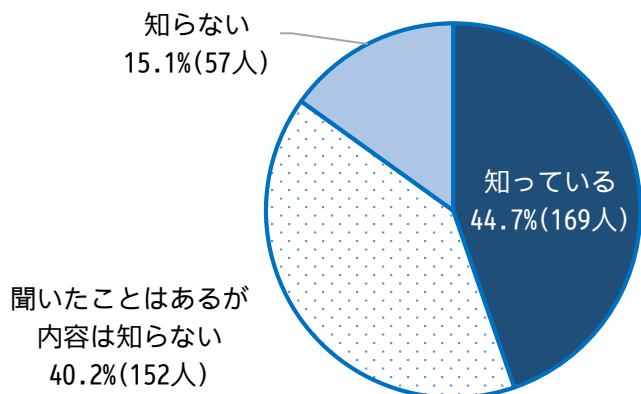


問14で「知っている」と回答した人のうち、73.4%が「確認している」と回答している。年代別では、10～20代・80代以上を除く各年代で4割以下と「確認している」割合が低い。性別では、男性は76.5%、女性は69.9%が「確認している」と回答し、女性よりも男性の方が6.6ポイント高い。

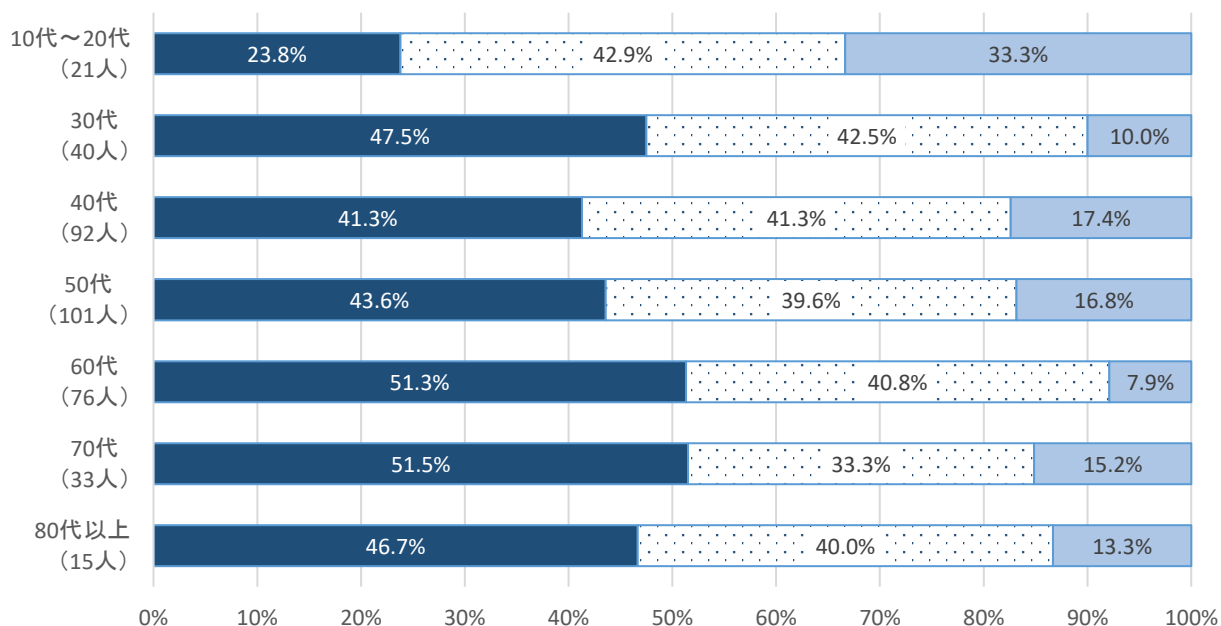
第6章 避難等について

問16 警戒レベル（「避難情報に関するガイドライン」（内閣府（防災担当））参照）についてご存知ですか？（1つ選択）

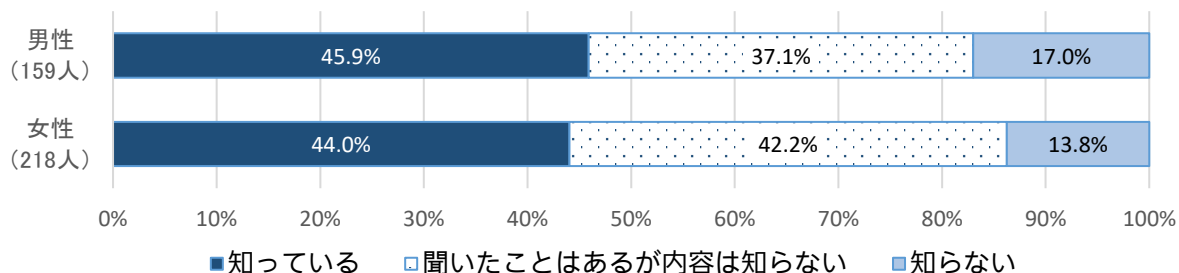
（回答者：378人）



年代別



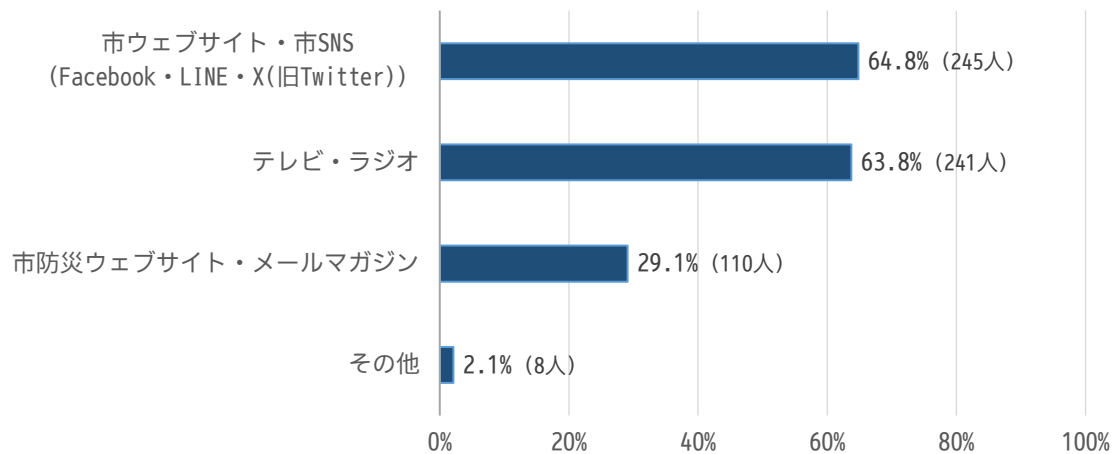
性別



全体の44.7%が「知っている」、40.2%が「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答し、合わせて84.9%が警戒レベルを聞いたことがある。

問17 本市では、災害情報や避難情報などを様々な手段で配信していますが、どのような手段で情報を取得していますか？（複数選択可）

（回答者：378人）



※割合は回答者数に対する選択者数の値です。

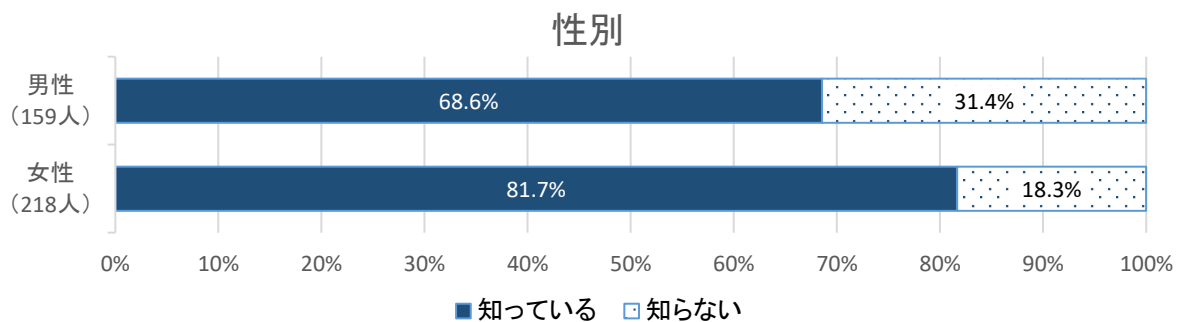
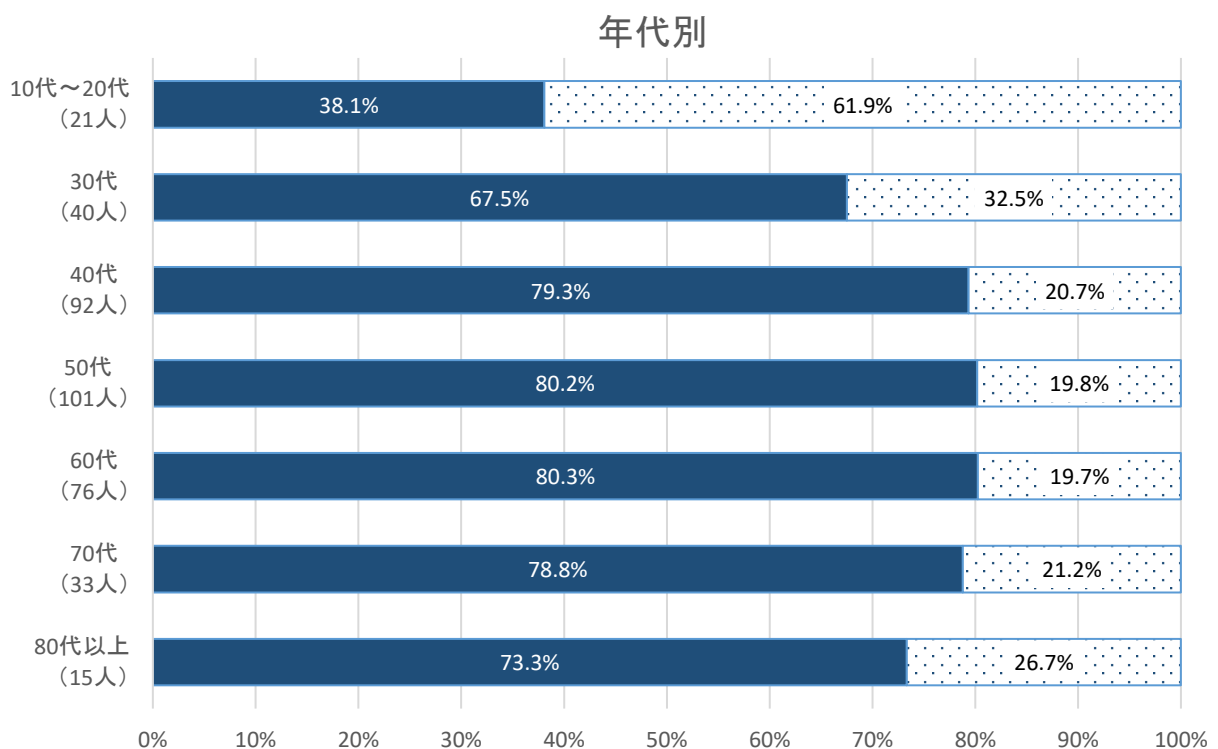
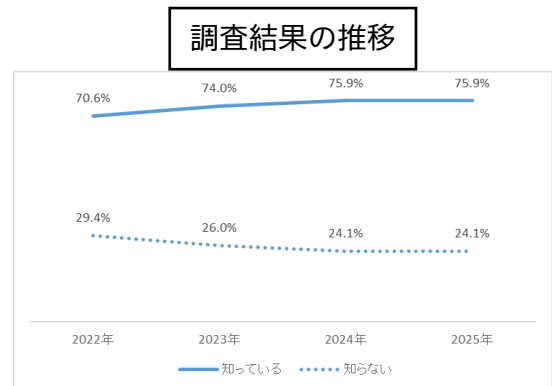
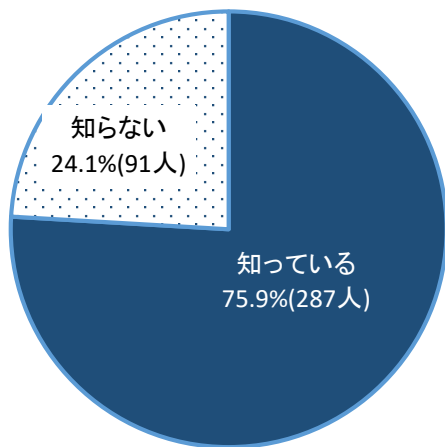
■「その他」を選択した方の主な意見

- ・防災無線など
- ・ウェブサイト、防災アプリ
- ・市役所等が配布する冊子

「市ウェブサイト・市SNS（Facebook・LINE・X(旧Twitter)）」が64.8%で最も多く、「テレビ・ラジオ」が63.8%で次に多い結果となった。

問18 「わが家の防災ハンドブック」をご存知ですか？（1つ選択）

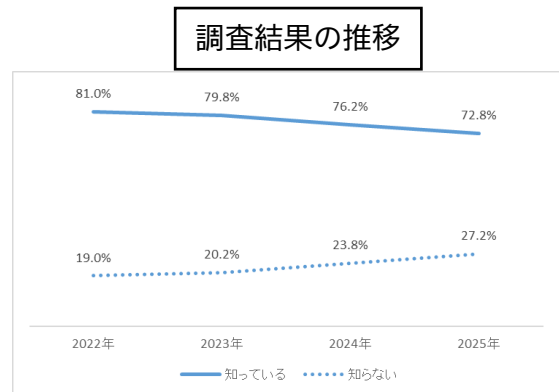
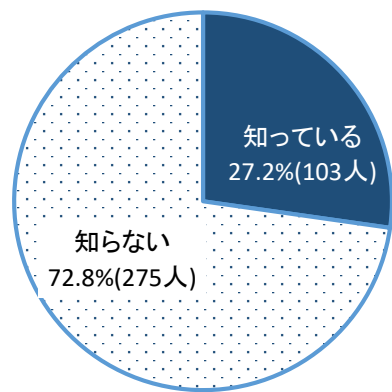
（回答者：378人）



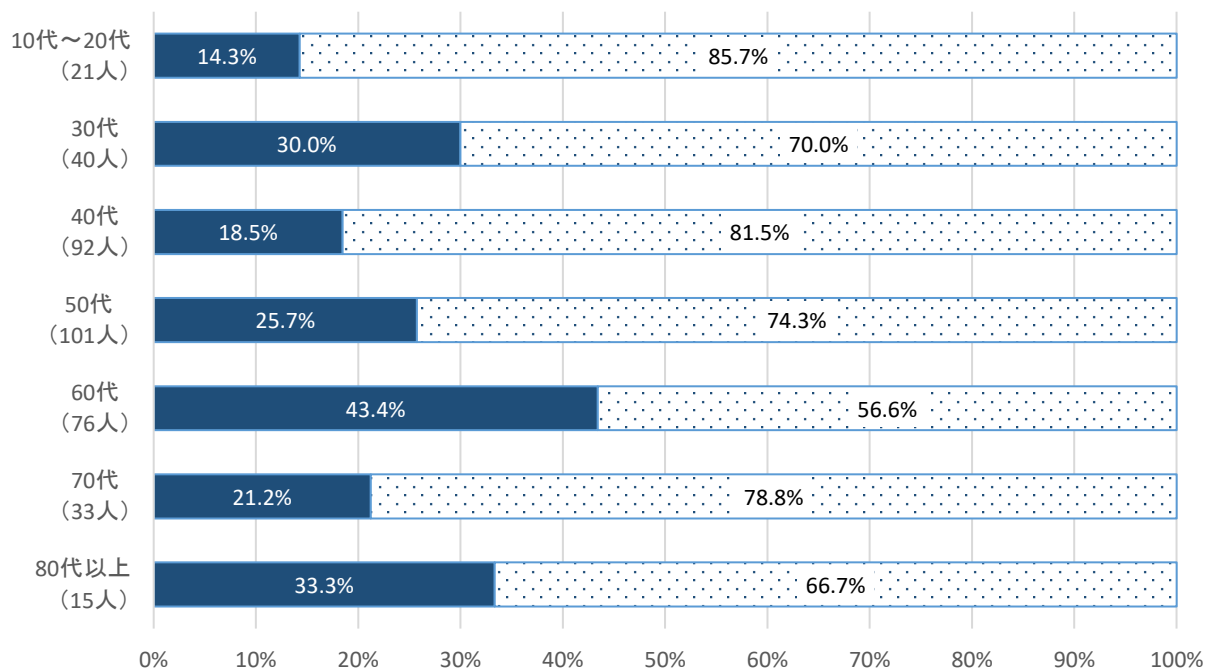
全体の75.9%が「知っている」と回答している。年代別では、10代～20代を除く各世代において6割以上となっており、認知度は高い。性別では、男性は68.6%、女性は81.7%が「知っている」と回答し、男性よりも女性の方が13.1ポイント高い。

問19 洪水等に備え活用できる「マイ・タイムライン（※）」をご存知ですか？（1つ選択）
 （※）台風の接近によって大雨などにより河川の水位が上昇する時に、「いつ・どんなとき・何をするか」をあらかじめ整理した自分自身の防災行動計画

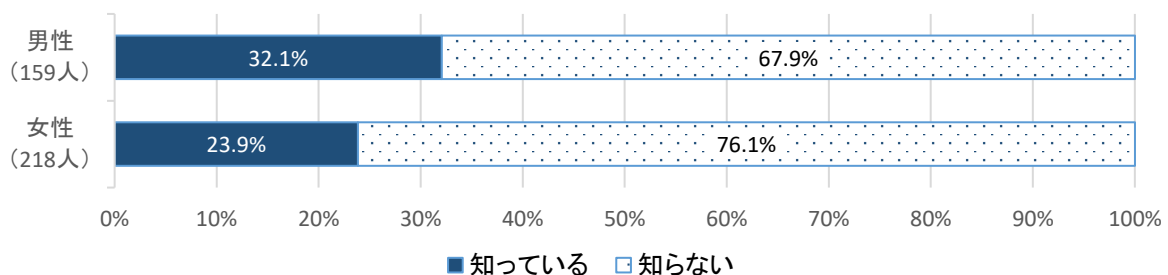
（回答者：378人）



年代別



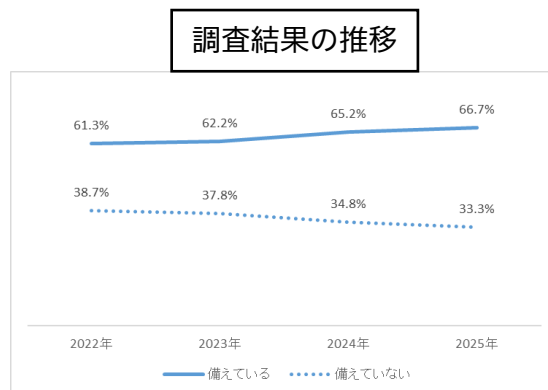
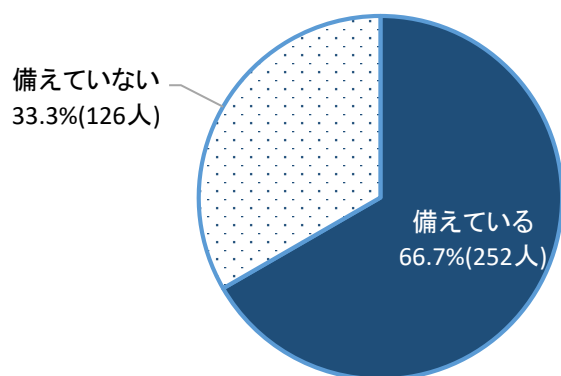
性別



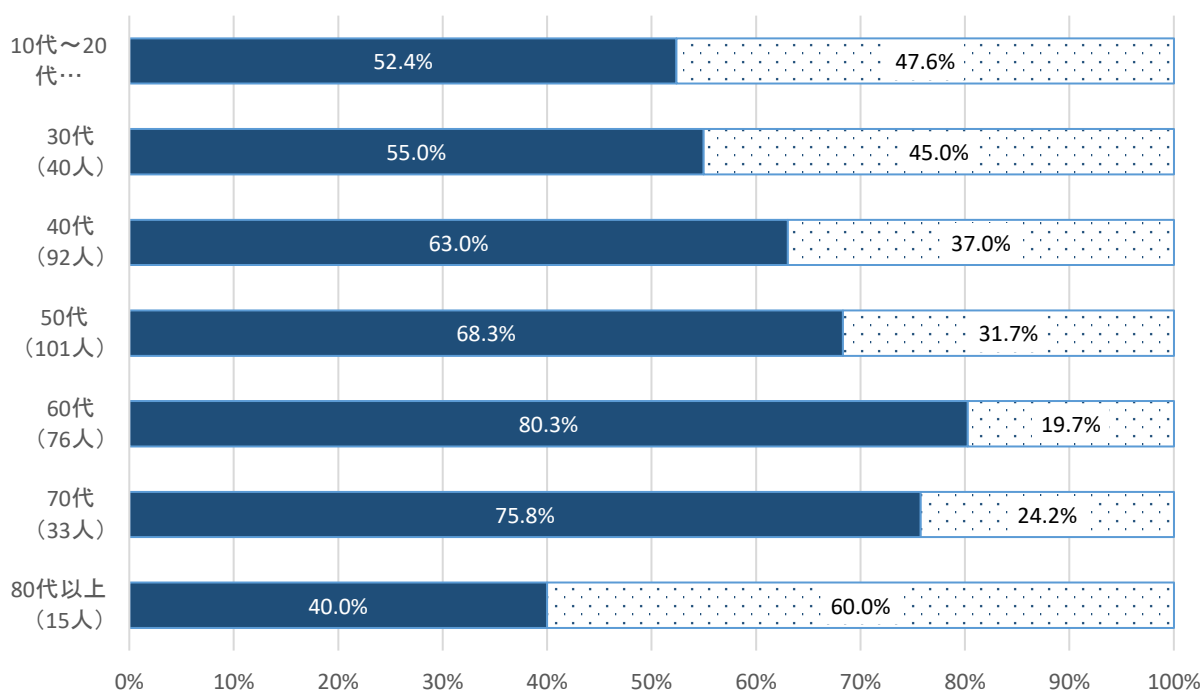
全体の72.8%が「知らない」と回答している。年代別では、どの年代においても「知っている」割合が5割以下となっており、認知度は低い。性別では、男性は67.9%、女性は76.1%が「知らない」と回答しており、ともに認知度が低い。

問20 家庭内に災害のための非常用備蓄品（ローリングストック）を備えていますか？
（1つ選択）

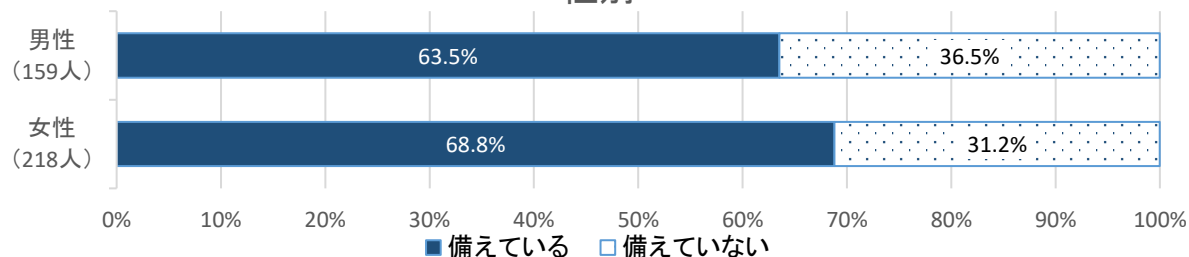
（回答者：378人）



年代別



性別



全体の66.7%が非常用備蓄品を「備えている」と回答している。年代別では、80代以上を除く各年代において半数以上が「備えている」と回答している。

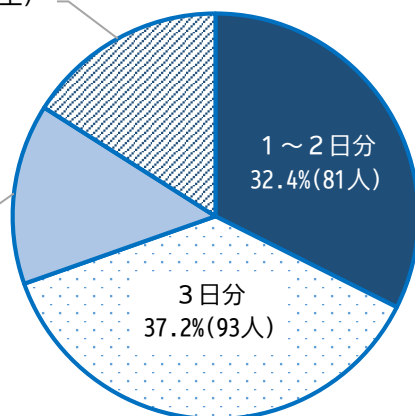
問21 問20で「備えている」を選択した方に伺います。非常用備蓄品（ローリングストック）を何日分備蓄していますか？（1つ選択）

（回答者：250人）

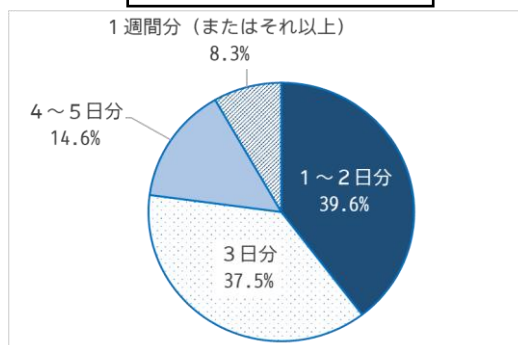
（無回答：2人）

1週間分（またはそれ以上）
16.0%(40人)

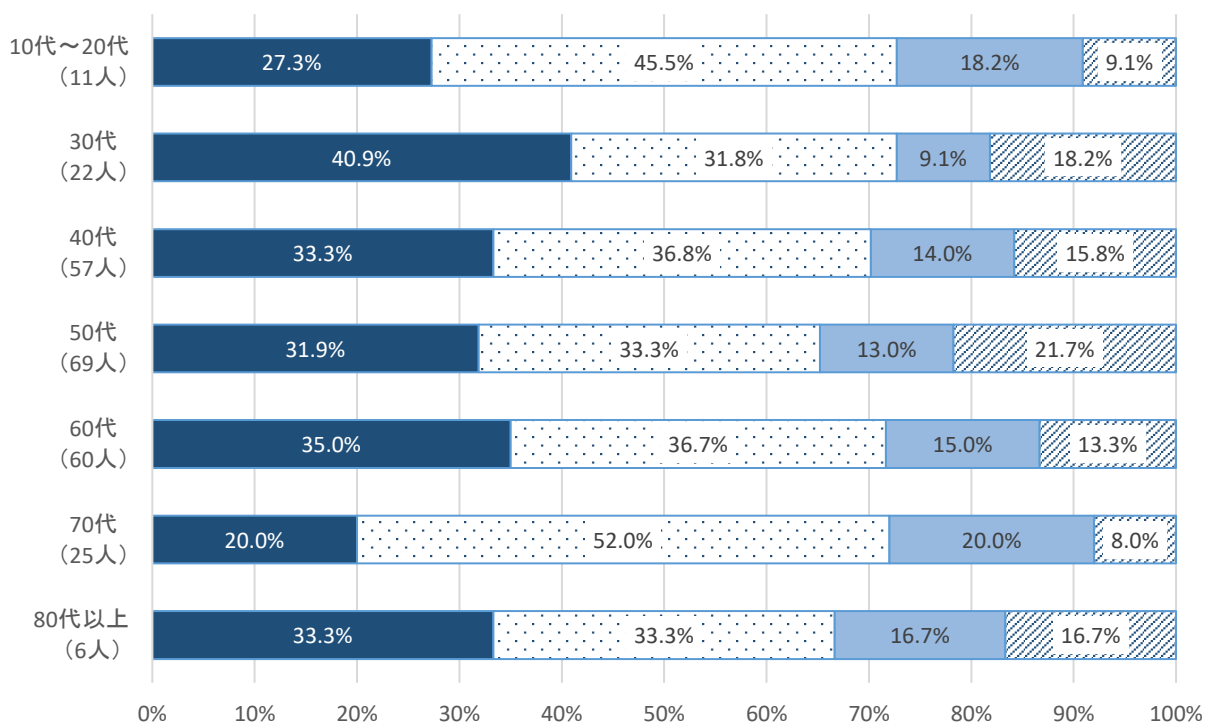
4～5日分
14.4%(36人)



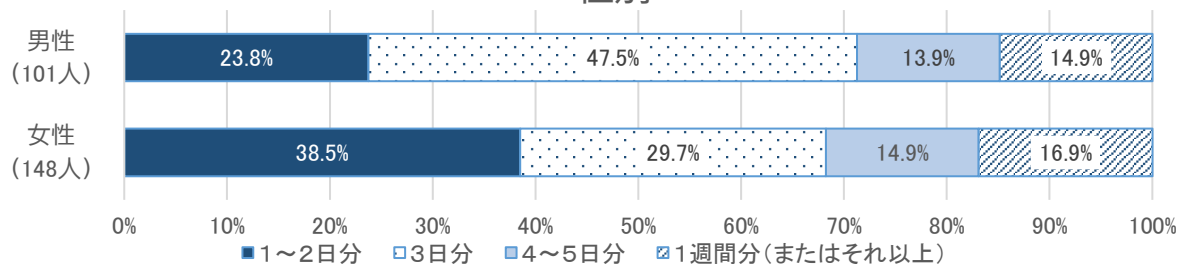
2024年度の調査結果



年代別



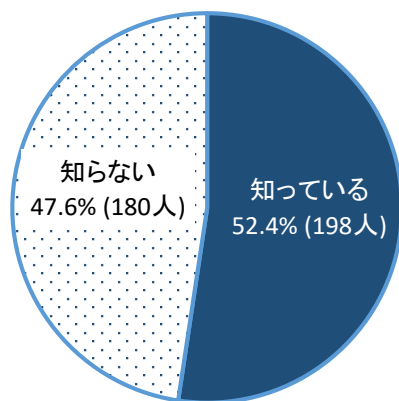
性別



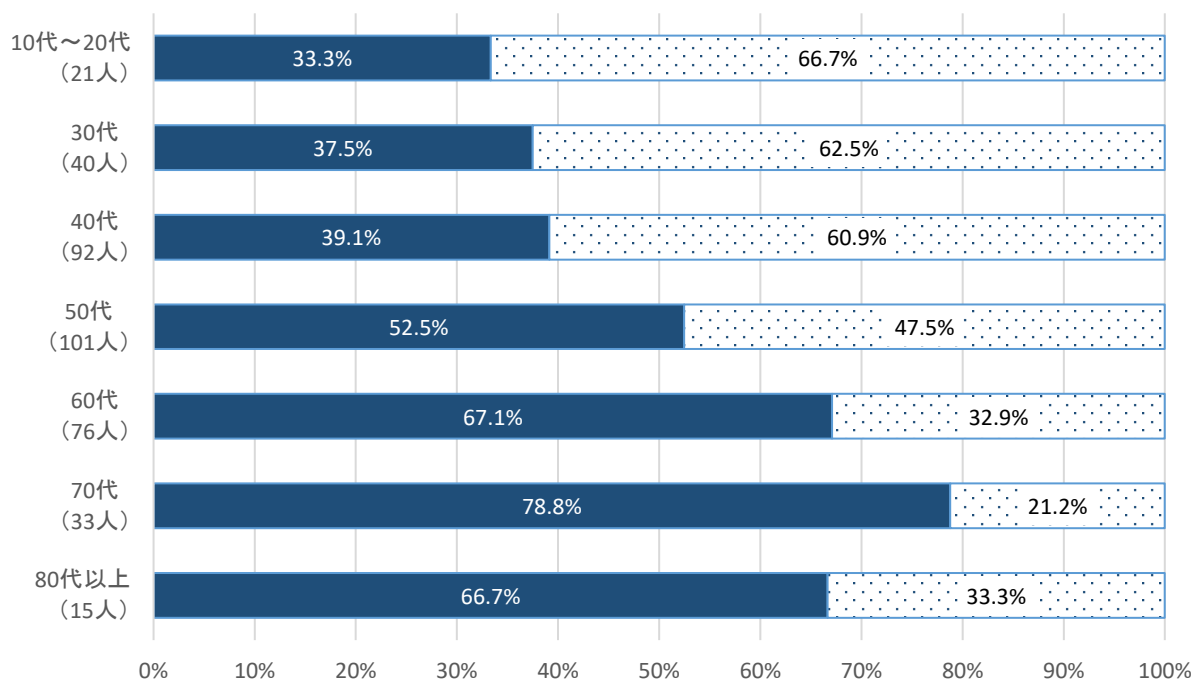
問20で「備えている」と回答した人のうち、「3日分」が37.2%と最も多く、「1～2日分」が32.4%で次に多い結果となった。性別では、男性の47.5%が「3日分」と最も多く、女性の38.5%が「1～2日分」と最も多い結果となった。

問22 本市では、避難所の生活環境改善のため、パーティションや段ボールベッド等を備蓄していることをご存知ですか？（1つ選択）

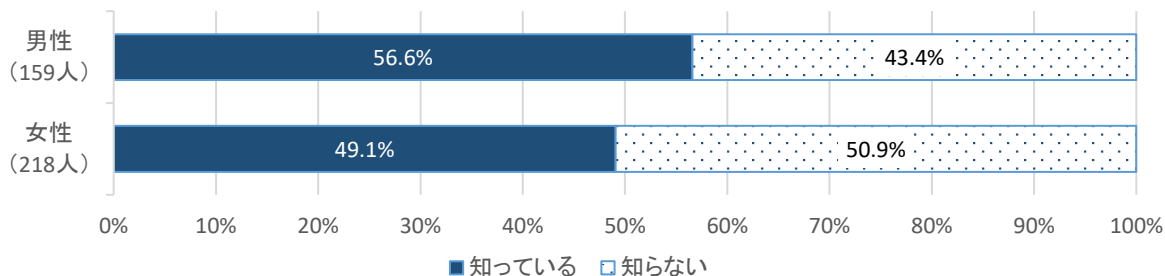
（回答者：378人）



年代別



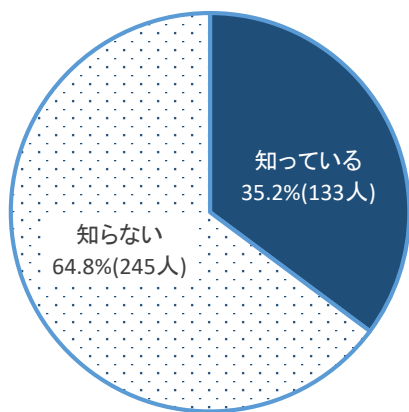
性別



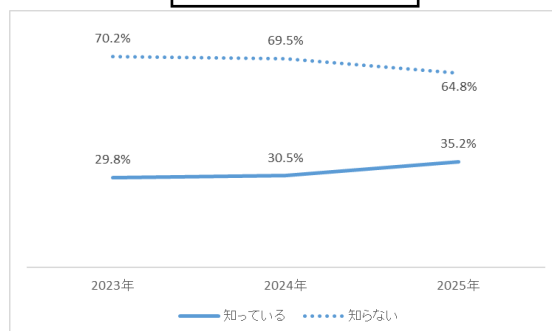
全体の52.4%が「知っている」と回答している。年代別では、60代・70代・80代以上が6割以上と多いが、10代～20代・30代・40代では3割程度の認知度となった。

問23 高齢者や障がい者など、災害時に一人では避難することが困難な方（避難行動要支援者）を避難支援するために作成する「個別避難計画」をご存知ですか？（1つ選択）

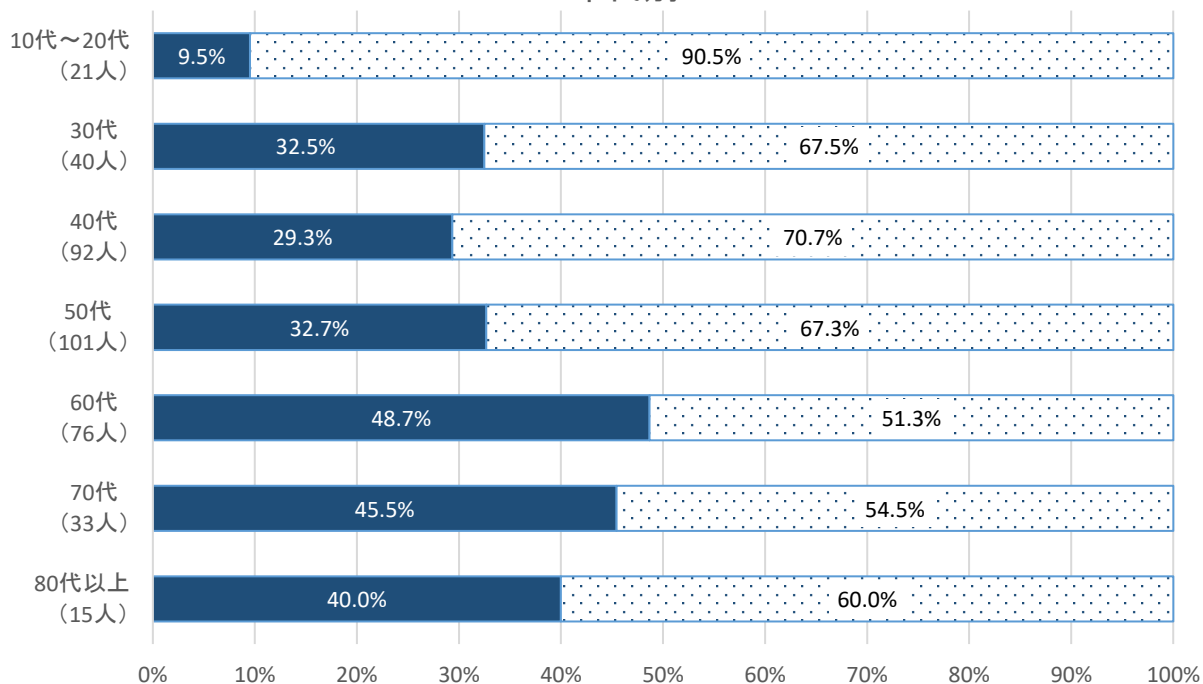
（回答者：378人）



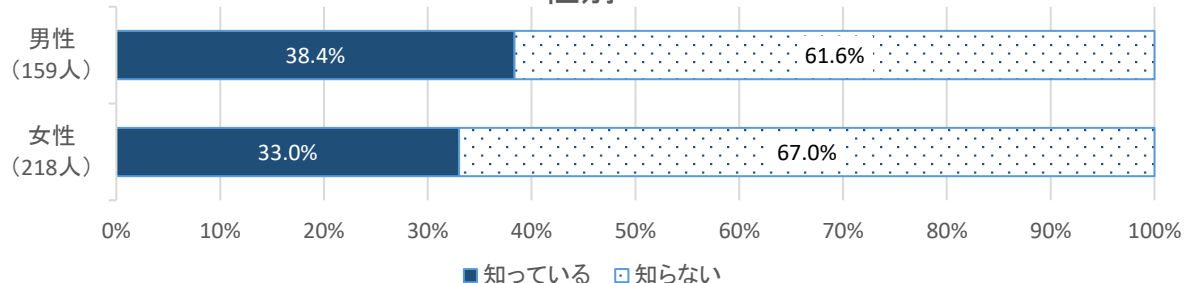
調査結果の推移



年代別



性別

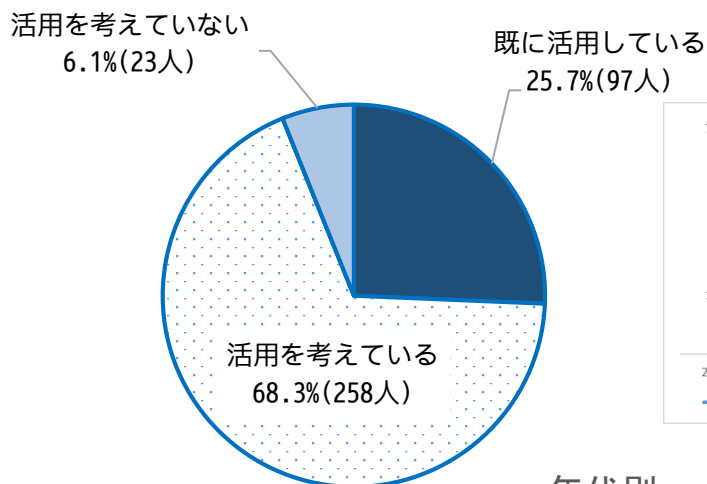


全体の35.2%が「知っている」と回答している。年代別では、すべての年代で「知っている」割合が5割以下となっており、認知度は低い。

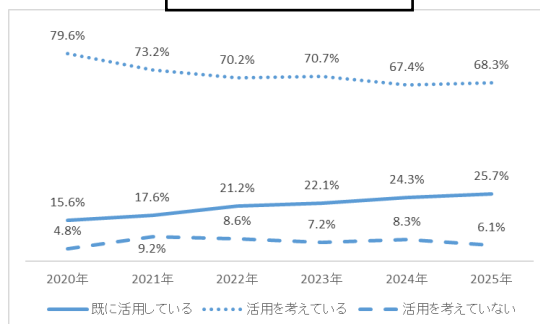
第7章 その他

問24 今回のアンケートを機に各種ハザードマップ（洪水、土砂災害、液状化）を活用しようと思いますか？（1つ選択）

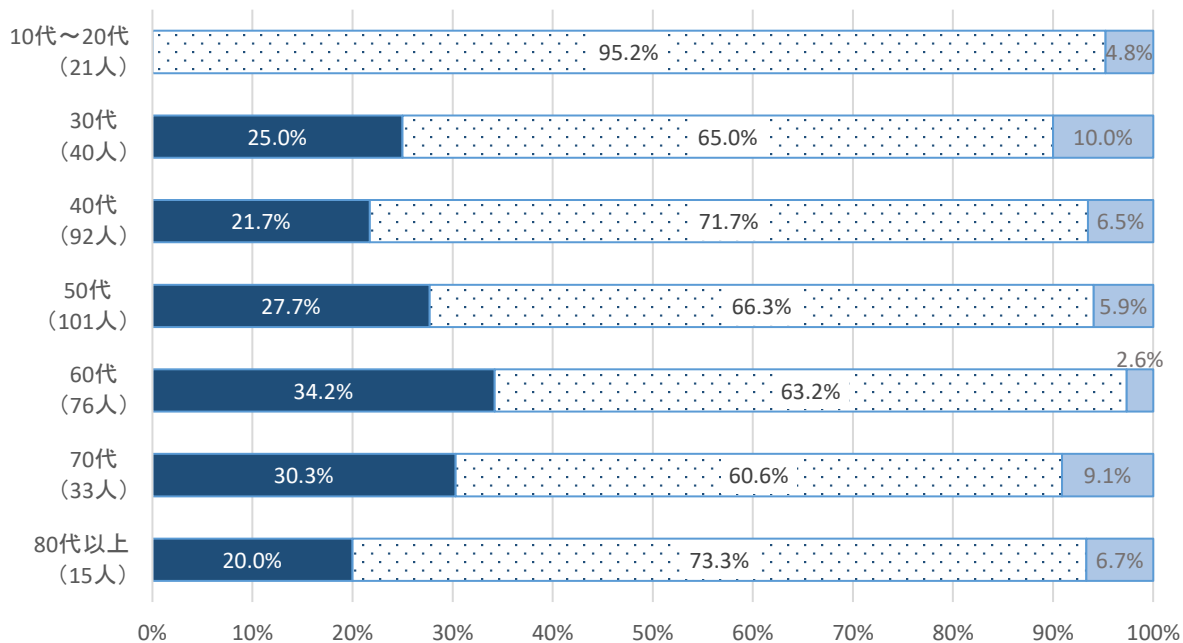
（回答者：378人）



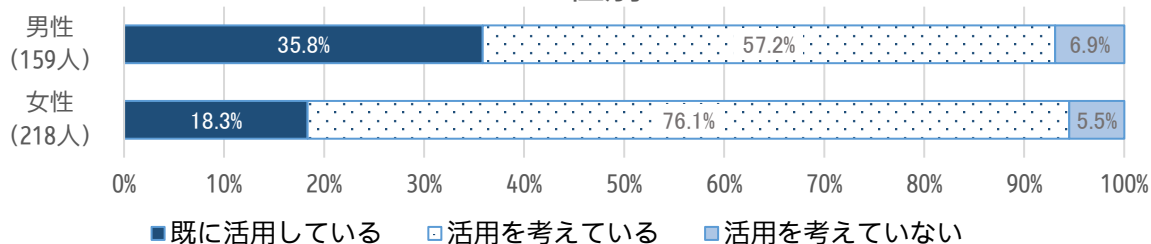
調査結果の推移



年代別



性別

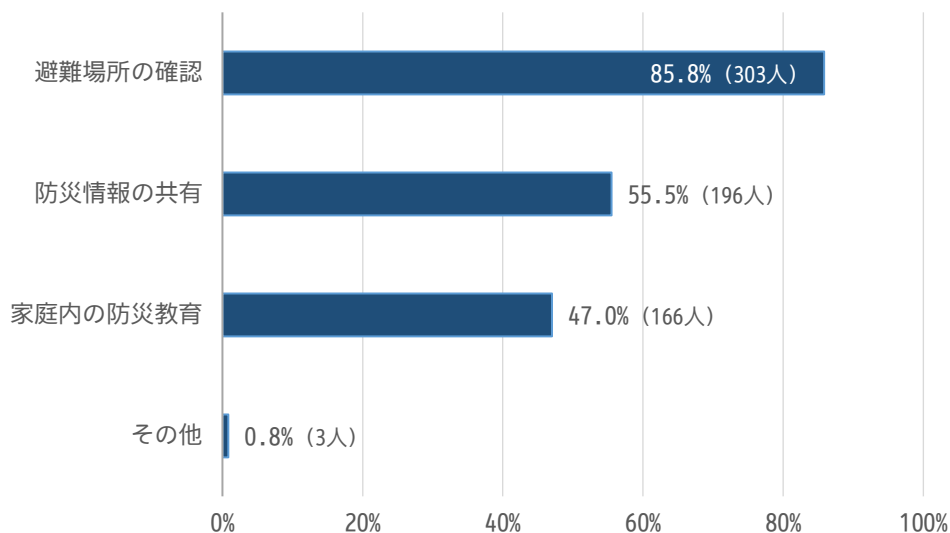


全体の25.7%が「既に活用している」、68.3%が「活用を考えている」と回答し、合わせて94.0%が各種ハザードマップの活用について考えている。

問25 問24で「既に活用している」や「活用を考えている」を選択した方に伺います。どういった活用を実行していたり、考えたりしていますか？（複数選択可）

（回答者：353人）

（無回答：2人）



※割合は回答者数に対する選択者数の値です。

■「その他」を選択した方の主な意見

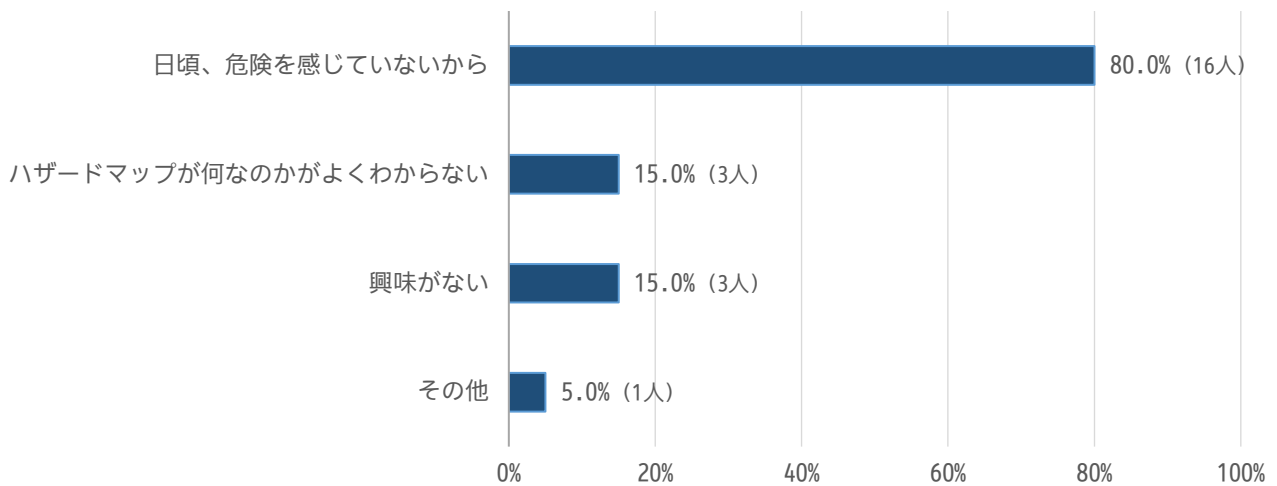
- ・避難時の家族の集合場所等認識合わせ
- ・冠水しにくい道路を調べる
- ・自主防災組織の活動など

「避難場所の確認」が85.8%で最も多く、「防災情報の共有」が55.5%で次に多い結果となった。

**問26 問24で「活用を考えていない」を選択した方に伺います。それはなぜですか？
(複数選択可)**

(回答者： 20人)

(無回答： 3人)



※割合は回答者数に対する選択者数の値です。

■「その他」を選択した方の主な意見

- ・防災アプリを使用するから

「日頃、危険を感じていないから」が80.0%で最も多く、次いで「ハザードマップが何なのかがよくわからない」および「興味がない」がともに15.0%であった。

問27 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

災害について
毎年のように「百年に一度の災害」と言う言葉を聞きます。何かあったらすぐに逃げる必要だと感じています。災害時は必ずしも家にいるとは限りません。もしも郡山で災害に遭うとしたら、地震か水害だと思っています。地震の場合は脆い建物、頑丈な建物を判断出来るよう家族と話しています。水害だったら、少しでも高い場所へ車で移動するよう家族と話しています。（40代・女性）
住んでいる場所によってどんな災害対策をとるのかは変わってくるかと思います。家族間で情報共有をしておきたいと思いました。（50代・女性）
ここ数年の異常気象で、常に災害を想定する事が必要ですねと思いつつも、掛け声だけの自分に気づきました。これを機に、準備等々再確認しようと思います。（70代・女性）
ハザードマップについて
以前、配布された避難マップ災害危険箇所の地図等、我が家は災害用品と共に保管してあります。今は、インターネットが普及しているので紙面での配布は減らしているまたは無くしていると思います。ダウンロードも可能なのはわかっていますが、それも出来ないご家庭もあるかと思っています。そして、災害時は通信不可となるため、紙媒体での避難マップや手引きは不要と思われがちでも、引き続き配布していただくと助かります。（50代・女性）
ハザードマップがあるのは知っていたが、液状化についてのマップまでは意識していなかった。郡山の広い範囲では無く、自分の地域の事が詳しく分かるような、町単位のマップが地域別に配布されたら良いと思う。（60代・女性）
ハザードマップを確実に周知して学区単位で訓練か確認を平素から実施していくことが求められる。行政任せでは無く、市民が自律的に動けるように啓蒙していく必要がある。（50代・男性）
ハザードマップを認知していても、必ずしも自宅で家族揃っているわけではなく、一人では適切な行動不可な超高齢者を自宅に置いたまま外出していると、不安は拭えません。災害は突然やってきます。一人にいる子供や高齢者をどう避難させ、家族と引き合わせる事ができるかを考えなければならないと思います。（60代・女性）
洪水ハザードマップなどをよく見ると、いつも大雨が降ると冠水するような所が記載されていなかったりするが、市の担当者がいちいち調べて更新するのも大変だと思うので、広く市民に情報を求めて更新して行くのが良いのではないかなと思う。また、郡山市地理情報システムなど幅広く情報を調べることはできるが、これも最新ではない部分があり情報が古いと使い物にならなくなるので、あわせて市民に最新情報を提供してもらうような仕組みを作るべきだと思う。（60代・男性）
ハザードマップ、本当に良いものだと思います。安心感が変わりました。（40代・女性）
防災について
震災があって常に防災の事を考えていかないといけないが、日常に戻ると仕事もあるのでそうもいかない事もありそこまで回らない。いつ来るかもわからないのに備えるのが面倒くさいです。（50代・女性）
先日、町内会で「マイ避難」の出張講義を受けました。とても分かりやすく、ためになりました。（50代・男性）
日々防災については考えているが家族と避難場所などの情報を話し合ったことがないのでこの機会に話し合いを持ちたい。ペットを飼っているのでも災害時のペットについても考えなくてはならないと思っています。（70代・女性）